

やまどい



石徹白道、別山からの白山



金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会会報 vol. 35

目 次

(頁)

OB 会会長あいさつ	22 期 黒崎敏男	1
【OB 会活動便り】		
東海支部報告	17 期 小島 敬	2
近畿支部報告	11 期加藤忠好 15 期金井 澄 15 期三宅 毅 16 期井上敏明	3
第 23 回野沢温泉スキー合宿 2020	11 期 青柳健二	11
2020 年小屋作業	22 期 黒崎敏男	13
【同窓会便り】		
12 期同期会実施報告	12 期 津田伸生	14
【現役より：新歓登山報告】		
医王山 1 班登山記録	1 年杉山 翔 水谷冠太 藤原里帆	15
医王山 新歓登山	富取泰治	15
新歓登山 医王山 4 班	中山詩野	16
医王山初登山	藤原 皓	17
【投稿のページ】		
御嶽山山行	4 期 佐藤秀紀	18
東北・紅葉の山旅・ヤジキタ道中	8 期 篠島益夫	19
もうひとつの鋸山（のこぎりやま）	9 期 吉田洋次郎	22
イギリス湖水地方を歩く	10 期 吉野和彦	24
近年の、外国での記憶から：承前	11 期 長岡正利	27
With コロナの 2020 年 遺物の整理	15 期 舟田節子	31
憧憬～九州・小鹿田焼の里～	17 期 小島 敬	35
【会計担当より】	23 期 小久保光将	39
【編集後記】	24 期 仲村正一	40

表紙の言葉 <石徹白道、別山からの白山>

美濃禅定道の時代からの歴史ある石徹白道には遺跡や伝説の場所が多く、別山には明治初めまで聖観音菩薩が祀られていました。御前峰が大きく、その左に大汝峰、七倉山、四塚山が見えます。（撮影：別山山頂 7 月中旬、15 期上馬康生）

年々歳々

OB 会会長 22 期 黒崎 敏男

まずは、昨年末発行の第 34 号の添付書類の件について改めてお詫びします。多くの会員の皆様にご迷惑とご心配をおかけしましたが、幸い、送付代行業者にも真摯に対応頂き、当会からは一切の追加支出なく 3 月末には希望者への次期会費への充当、返金又は寄付の処理を終了し、一件落着となりました。今後の教訓とさせて頂きたいと思います。

さて、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、我々も例外なく何らかの影響を受けることとなってしまう、活動の機会を失って残念な気持ちで過ごされた方も多かったことと思います。本誌の記事中にも多くの部分にそのことが記されています。

そうはいつてもということで、自分自身は今夏、別ルートで 2 回白山に日帰登山し、最低限のノルマは達成したのですが、どうも年々歩みが遅くなっていることがはっきりしてきました、若い頃は目と鼻の先にしか思わなかった中飯場と甚之助小屋の間の遠いこと。「これはおかしい」など感じたものの、おかしいなどあろうはずもなく、単に遅くなっていただけのことでした。足が痙攣したり、膝が痛くなったりすることを恐れ、体を労わりごまかしながらの山行は何とも情けなく、先輩方から他人事として聞いていた「衰え」というものがいよいよ我が身にも訪れたかという実感がひしひしと押し寄せてきました。

これは一人の人間にとっての必然的な変化ですが、当会のような団体の活動にも相通ずる部分があるように感じます。活動を起こし、支えてくださった皆様も高齢を迎える中、そろそろ会としてもこれまでの活動を振り返り、後世に記録を残したり、今後の活動内容への合意形成などを通じ、無理のない形で次の世代の方々にこれまでの皆さんの熱意とか精神のようなものを引き継いでいくことができれば嬉しいと考え始めた次第です。

一つの提案ですが、ご自宅にある KUWV 及び OB 会関係の資料等で譲ってもよいと思われるものをお持ちの会員には巻末の OB 会長のアドレスまでご連絡くだされば引き取りの手段を相談した上、ひとまず、会長が保管し、然るべき時期に複数の役員でそれらの保存、廃棄やその手段を決めて対応するようなことをしてはどうかと考えます。

懐かしい青春の記憶ですから最後まで手元に置きたいと思うものが多いとは思いますが、特に部誌「Bergheim」や OB 会報「やまざと」については散逸を避けることのできる機関にまとめて寄贈し、必要が生じた場合にだれでも閲覧できるようにしておくのが妥当ではないかと思料します。（既に先輩方によってほとんど対応済のため、補完的に行う。）

その他、本誌の在り方や山小屋の今後についても多くの方々から示唆に富む様々なご意見を頂戴しており、次の機会にはそれらについて紹介するとともに、次期総会での提案又は話題とすることを一つの目安として時間をかけて内容を整理して行きたいと思います。

私自身もできるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力してみますので、お会いできた暁には忌憚のないご意見を承りたく存じます。何卒よろしく。

東海支部報告

NHK 朝ドラ「スカーレット」の舞台 信楽を訪ねる PW

報告者 17期 小島 敬

NHK 朝の連続テレビ小説『スカーレット』
(2019/10-2020/3) の舞台となった滋賀県の信楽を訪ねました。信楽は日本六古窯のひとつです。狸の置物で有名ですが戦前戦後の主力製品は火鉢でした。火鉢の需要が減少してからは、大物陶器づくりの技術を活かして植木鉢や庭園用陶器、建築タイルなどが生産されています。1976年に信楽焼は伝統的工芸品に認定され、様々な製品が作られています。

時：2019年11月9日（土曜）

メンバー：L. 小島（17）、森島（4）、中野（8）、
渡邊（17）〔現地合流〕、加藤万里子（21）

行程：名古屋駅⇒（新名神）⇒信楽 IC⇒「宗陶苑」
→昼食「一水庵」→滋賀県立陶芸の森陶芸館→「マルタ陶器」
→新宮神社→ろくろ坂→窯場坂→「山文窯」⇒信楽 IC⇒（新名神）⇒名古屋駅

名古屋駅に4名集合。東名阪経由で2019年春開通した新名神（新四日市 JCT～亀山西 JCT）を走りました。新名神は鈴鹿山脈の麓に沿って伸びています。御在所岳や鎌ヶ岳が間近に迫り、なかなか新鮮な眺めでした。鈴鹿トンネルを抜けて滋賀県に入り信楽 IC を降りて信楽の里へ。吃驚するほどたくさん狸の置物に迎えられました。

車を止め、まず「宗陶苑」を見学しました。日本最大の11室の規模を誇る登り窯があり、今も現役です。『スカーレット』の丸熊陶業の撮影に使われた窯です。15,000㎡を超える広大な敷地に登り窯や工房や展示場、倉庫、社員食堂などが点在していました。工房を見学することもできました。その後、新宮神社で渡邊さんと合流し、信楽高原鉄道・信楽駅前の「一水庵」で早めのお昼。昼食後、滋賀県立陶芸の森陶芸館の『北大路魯山人』展へ。やきもの好きの参加者だけあり、皆さん熱心に作品を鑑賞していました。陶芸館を後にして、「マルタ陶器」2階ギャラリーの『神山（こうやま）清子』展へ行きました。神山さんは『スカーレット』のヒロイン川原喜美子のモデルです。森島さん持参の、週刊誌の記事「スカーレットの

モデルはこんな人」（全8頁）を昼食時にみんなで読んでいたので、神山さんの写真や半生、作品は頭に入っていました。2階から1階の売店に下りると、なんと、神山清子さんご本人が来店していました。「あ、写真とそっくりだ」と思わず声に出してしまいました。お店の人が親しげに「清子先生」と呼んでいたのが印象的でした。神山さんは84歳の今も現役の陶芸家（寸越窯）です。



神山清子展を観てから渡邊さんと別れ、4名は窯元巡りを再開しました。新宮神社の横を通って、ろくろ坂を散策（けっこうな登り坂）し、Ogama（明山窯）で折り返して窯場坂を下りました。途中で「山文窯」に寄りました。ここも丸熊陶業の舞台になりました。庭には、ドラマに出てきた多くの火鉢が並べられていました。

3時過ぎ車に戻り、新名神に乗って名古屋へ帰りました。終日快晴で風もなく、小春日和の山里の散策を楽しむことができました。

忘年会

時：2019年12月8日（日）

メンバー：森島(4)、白井(9)、窪田(11)、森川(11)、
神林(13)、柴田茂樹(13)、祖父江(15)、
川端(16)、小島(17)、吉田(17)、渡邊(17)、
安井(22)、黒岩(24)

会場：名古屋駅前 奥志摩名駅中央店 本館



近畿支部報告

<コース、参加者は最後に記載しました。>

1. 令和最初のサンマパーティー

(報告者 15期 金井 澄)

・実施日 2019 10/29(火)～30(水)

・報 告

『秋はサンマ、脳みそが長持ちするサンマ、ぜいたくな味わいを』との呼びかけがお盆のころにあった。サンマパーティーは、近畿支部の秋の恒例行事としてもうすでに20年近い歴史を重ね、すっかり定着してきた。



《琵琶湖を望む山上に集う参加者》

令和最初のサンマパーティーは、滋賀県北部にあるピラデスト今津を舞台に開催された。参加者は14名で、会費はひとり11000円（一泊二食で超格安！かつ1000円の返金があった）。東海支部からは川端支部長など3名が、金沢からは黒崎OB会長もはるばる駆けつけていただくなどの豪華キャストとなった。

加藤さんはじめ15期の運営委員（間所、三宅、金井）がこれまでの経験を生かして、知恵を出し合い、買い出しなどもうまく分担し効率よく準備を進めてきた。とりわけ好評だったのが、「芝寿司」と「うどん」であった。金沢の芝寿司は夕・夜食兼用にと特別に取り寄せたものだが、昼間のBBQでおなが一杯になり、手土産の形でそれぞれが持ち帰ることとなった。うどんは当地のスーパーで求めたもの（地元・玉木のうどん、10玉で650円）だ。讃岐の名店・小縣家風の大根おろしをかけて提供したが、これが皆さんからどえりゃーうまいと絶賛を得た。

また、差し入れが多かったのも今回の特筆事項

の一つ。各地の名産であるお菓子ははじめ、果物、漬物など多彩。なかでもアルコールの量が少し心配されたが、黒崎会長がドンと一升瓶の日本酒を出していただいたときの■兵衛の歓声が今も耳に残る。

そして、いつものように、BBQ、お茶会、スライド発表会を楽しくこなしての一日。お茶会は森川宗匠の指導のもと執り行われた。今回は加藤さんより秘蔵？の茶碗の提供があった。アミダクジにより「銘：高三郎」は越前へ、「銘：籠の中」は尾張へ、「銘：秋霖」は三河へとそれぞれ7つの茶碗が新たな旅立ちをした。

天候にも恵まれ、山上で満天の星空も仰ぐこともできた。

翌日も晴天で、琵琶湖を臨む山上のグラウンドで第2回フリスビー大会も実施できた。ちなみに、優勝は三宅さん、準優勝は金岩さん、そして3位は加藤さんとなった。ケイバ風に3連単となると、軽く10万円を超える高配当並みの結果。

あれから半年。予想だにできなかったことが起きた。世界中で猛威を奮うコロナウイルスに日常を厳しく制約され、閉塞感は増すばかり。なんでもない日々がいかに大事なのかと、思い至る今日この頃です。我々に残された時間は、お互いにそんなに多くはありません。それゆえ、大切に大切に生きていきたいと願わずにはおれません。

またいつの日にかサンマパーティーの再開に大いなる期待と希望を抱いて報告とします。



《炭火で食べるサンマはおいしい》

2. 大塩・のじぎくPw

(報告者 11期 加藤忠好)

・実施日 2019 11/21(木)

・報 告

各県には県花があるが、兵庫県は「のじぎく」である。かの牧野富太郎が経済的に苦境に陥った

時、救いの手を差し伸べたのが後に南蛮美術館を創設した池長孟である。彼は牧野の植物標本を買い取り散逸を防いだばかりではなく、牧野のために神戸・会下山に植物研究所を設けた。牧野が兵庫県の野山を歩いたのはその時期である。「大塩に咲くのが日本一」と評し、何度も訪れたのが土佐でも咲いていた「のじぎく」であった。

のじぎくは海に近く、明るい場所がよく育つ植物のようだ。当時の大塩の写真を見ると、塩田が広がり、一方、水田が少なくそれ故山まで耕作されていた。のじぎくにとっては最高の環境だったろう。塩田の濤（塩水を引く水路）から山畑までののじぎくは繁茂し、その壮観さは牧野の目を楽しませるに充分だったろう。

そして現代、塩田は消滅し、生産性の悪い山畑が放棄され木々や竹林に代わった。もはやのじぎくが生育する環境ではない。そのことを承知した上で、大塩での牧野追体験PWを企画した。

大塩は姫路市の西部。ほとんどが遠来の人となる。それ故山陽大塩駅集合をゆっくりとした時刻に設定した。上馬夫妻が金沢から参加ということも加味した。集合後、最初は浜街道沿いのかつて塩田で栄えた集落を歩く。建物の佇まい、街道の狭さや曲がり具合がしばし我々を過去に誘う。

山にさしかかると、すぐに主稜に達した。海拔ほぼ0mから歩いたのだが、それくらい低山なのだ。それでも亀岩からは姫路方面、瀬戸内海が、そこからすぐの一本松山からは、淡路島、六甲山系の山々の眺望が楽しめた。



《好展望地：亀岩の上で》

食物に詳しいキッコちゃんが一本松山でシャリンバイの実を見つけると、俄然展望はどこ吹く風、まだまだ長生きできそうな我々であった。

で、肝心の「のじぎく」というと、一本松山あたりまで、殆ど目に入ってこないのだ。中世とい

われている大塩城跡を過ぎるあたりから道端にポツンポツンと見られるようになってきた。これではあまりにも寂しいので、馬坂峠の保護地に立ち寄った。誰もが「オオッ」と言うくらい咲いていた。かつてのように地元の人の手で山畑のようにしてある場所では匂うが如く咲いていた。



《のじぎくと記念写真：馬坂峠附近》

日笠山、のじぎくの里公園、馬坂峠入口でも、見事な花が見られた。しかし、野路というより栽培しているような観は否めない。よって、かつての塩田の風情が残っている中濤まで足を延ばすことにした。多くはないが群落や濤に垂れるように咲くのじぎくから昔を偲ぶことができた。クコの実もあった。ここでもシャリンバイがたわわに実っていた。女性たちの大いなる盛り上りに「季節はまさに食欲の秋哉」自然の摂理を感じた。

大塩はアナゴのうまいところだ。打ち上げは、地元の寿司辰で軽く食事をすることにしていた。下見では、全員が入ると満杯になるような店構えだったので、一応予約したが、どうぞと通されたのが広い奥座敷、しかも貸しきりだ。一気に宴会気分になった。が、我々は頑として軽い食事の範囲を守った。すし屋にとっては期待はずれだったかも知れない。浜処だけに、にぎりもアナゴ寿司も胃袋が大喜びする味だった。PWに有終の美を添えるに十分な打ち上げだった。

3. 京都・松尾山唐櫃越PW

(報告者 15期 三宅 毅)

・実施日 2019 12/13(金)

・報告

京都の人気ハイキングコースとして京都一周トレイルがあります。ご存知のように京都市街は東、北、西の三方を山で囲われておりますが、その山の中に整備されたトレッキングコースが京

都一周トレイルです。

東山コース、北山東部・西部コース、京北コース、西山コースに分けられており京都市街の展望もよく人気のハイキングコースです。今回のPWは西山コースの一部嵐山、松尾山から苔寺分岐を経てNHK大河ドラマ「麒麟が来る」の主人公明智光秀の本能寺攻めの舞台となった唐櫃越えの一部を歩き洛西に下るルートを企画しました。

阪急嵐山駅、9時40分には参加者16名全員集合。間所夫妻は福井から、森川氏は桑名から参加。前日までは寒い日が続いたが風もなく穏やかな好天で絶好のハイキング日和となった。



《前半の最高峰：松尾山山頂にて》

9時50分阪急嵐山駅を出発し京都トレイル松尾山登山口(トレイ標識No26)へ。記念撮影をした後いよいよ松尾山(275m)への登り。竹林の中を緩やかに登ると明るい尾根に出る。日差しが暖かく紅葉もまだまだ綺麗だ。10時30分松尾山展望台に到着。嵐山駅から40分。眼下には渡月橋や天竜寺など嵐山一帯が間近に広がり三方を山に囲まれた京都市内も一望出来る。比叡山や比良山も良く見える。トレイルの標識に従いしばらく木漏れ日が注ぐ明るい雑木林の尾根を行くとベンチのある広場に着く(11時45分)ここで昼食。伊豫さん差し入れのスープを作る。調理済のたっぷりの野菜に生卵を加えた美味しいスープであった。赤地さんからは抹茶の差し入れ。12月とは思えない暖かい日差しの中、賑やかで楽しいランチタイムでした。

昼食後は急坂を5分下ると西芳寺川に降り立つ。(トレイ標識No51)ここが京都一周トレイルの終点だ。林道を左に10分ほど下ると苔寺である。私たちは幅5メートルほどの西芳寺川を渡渉し対岸を登り返す。(これが京都の平の渡しとか?)丸太の橋を何度か渡り20分程で丁塚着。

ここからいよいよ唐櫃越えの尾根を歩く。本能寺へ向かった光秀に思いを馳せるが、本当にこんな所を大軍が通ったのかとを感じる。

西にしばらく進むと左右に展望が開ける。尾根の南側は眼下に洛西ニュータウン、長岡京市、天王山。遠く音羽山から生駒山などが見渡せる。尾根の北側には愛宕山が近く、遠く比叡山が見える。尾根上には展望台が3か所ありそれぞれ休憩して雄大な展望をゆっくり一時間近く楽しんだ。日の出展望台から急坂を30分ほど下り桂坂野鳥公園に着いた。

野鳥観察の予定だったが鴨が見られたくらいで残念だった。今回のコースは松尾山から一旦西芳寺川まで下りまた昇り返す行程だったので歩行距離の割にはタフであった。桂坂小学校バス停からバスに揺られ30分。阪急桂駅前にて金井さんと合流。優しくて可愛い女子高生に記念写真を撮ってもらい、すぐ近くの「グラスホッパー」にて忘年会。ここは自家製燻製料理が人気のちょっとお洒落な店だが通常18時開店のところを16時30分開始の貸し切りにしてもらい高齢者集団という事で料金まで少し安くしてもらった。ありがたい事です。忘年会は一時間半で終了したが何故かおつりがたくさん返ってきたので皆さんで阪急桂駅の中にある喫茶店でお茶して解散。2019年を締めくくった。



《後半の最高地附近：唐櫃越の東ベンチにて》

最後に参加の皆さんからのメールの一部を紹介します。

『昨日はありがとうございました。京の北アルプス横断のコース、平の渡しから針木谷あたりは静かな道でした。稜線からの展望もこれまで歩いたことのある山々が懐かしく見えました。楽しい一日でした。伊豫さん、手違いでバーナのヘッドを置いてきたのが残念。一度はザックに入れたのですがー。』

『京都トレイルコースは2度程、覚えの有るコ

ースでしたが、西芳寺の谷～唐櫃越～桂坂のコースは初めてでした、京都を北・東・南・西と尾根筋から展望出来て最高でした、お世話頂き有難う御座いました。』



《松尾山下りのピークで昼食》

『早安！迷子のけんです。(笑い) 当日は、やはり大明神のご威光あらたかで、素晴らしい天候に恵まれさわやかに楽しくハイク出来ました。今年を締めくくるにふさわしい京都西山トレッキングでした。伊豫さんのスープもこれまで味わった事のない程、美味しゅうございました。(実は当日おにぎりを買い忘れて昼食はミカンとビスケット少々だったのです) 三宅さんの緻密な企画に大満足の日でした。お疲れ様でした。非常感謝！みなさま、いいお年をお迎えください。来年もよろしく願いいたします。』

『楽しい一日をありがとうございました。西山を見直しました。これからちょっとお出かけの山に加えて楽しみたいとおもいます。角度を変えながら京の街を見られるのも遠くの山並みを見られるのも。人数が多いと大中小でもれることも生じたりするのですね。最後にコーヒーのオマケまで感謝です。』

『お世話になりました。私にとっては、汗をかく山行きでした。畔山知栄子さんに作ってもらった頭巾を三枚持って行ったのですが、この季節でも松尾山の登りと唐櫃越でそれぞれ乾いたものと取り替えました。幸い風がなかったので体に冷えが来ず、秋山のような気持ちの良さがありました。』

『京都松尾山PWではお世話になりました。天候にも恵まれ、尾根道からは京都の町並みがよく見えました。うっすらとですが、鈴鹿山脈の雨乞岳と鎌ヶ岳も見えていたようです。紅葉もまだまだ綺麗でしたね！ 赤地さん、お茶ごちそうさまでした。赤地さんにお茶を御馳走になるとは、夢

にも思いませんでした。次回も楽しみにしています。』

『13日の京都の西山を巡るPW、お世話になりました。標高50m～280m～50m～300m～170mと起伏に富むものの稜線は景色も開け、気持ちのよいコースでした。また多数の参加で、2019年締めとなり良かったですね。皆さんからのたくさんの差し入れもありがとうございました。伊豫さん、スープおいしかったです。お手伝いをしてくださった皆さんに感謝します。』

『久しぶりのPW参加でしたが、皆さんのお陰で楽しい一日を過ごすことが出来ました。乾いた落ち葉を踏みしめながらの山行き、京都市街の眺め、大勢でのお喋り楽しかったです。ありがとうございました。打ち上げ会の後は嵐山駅近くのホテルへ。丁度「嵐山花灯路」初日で法輪寺のプロジェクションマッピング、渡月橋のライトアップを楽しめました。』

4. 六甲・観音山PW

(報告者 11期 加藤忠好)

- ・実施日 2020 1/22 (水)
- ・報告

正月というのは企画に窮する時期の一つである。正月食とゴロゴロ生活で体は重い割に足腰が弱っているのがこの月の特徴でもあるからだ。



《ボルダリングの聖地、北山公園》

よって、地球の重力に逆らわず、路線バスで高度を稼ぎほぼ下山で、しかも変化に富んだ山を考え、六甲山系でも西宮の山で企画した。

最高地点が565.6mのゴロゴロ岳。そして有馬温泉行きの路線バスは、標高500mまで運んでくれるという裏技付きの計画なのだ。このバスは阪神駅、JR駅、阪急駅と回ってくる。集合地を下車バス停の近くで、附近にトイレもある奥池とした。山中ではあるが、阪神間では高地居住を好む人々が多く、周囲は別荘風の風情の良い住宅地である。奥池は芦屋市の水源でもある。

無事全員定刻までに奥池に集合。池を回り、ゆるゆると坂を登るとゴロゴロ岳についてしまった。山頂のすぐ横にも住宅がある。このような場所であるが、真面目に芦屋側から登山すると、一汗も二汗もかかねばならぬ山頂でもある。ここから北に歩いた。稜線は非対称で西は住宅が建つ緩斜面、東側は花崗岩の断層崖である。しばらく歩くと、住宅がなくなり、全くの山歩きとなる。途中で椅子岩に立ち寄った。花崗岩がソファ状の形にうまく割れていた。三人ぐらい座れる岩で、ここに座れば大阪北部の眺めが良い。坐すれども眼下を見るには少々勇気がいる岩でもある。

さらに稜線を行くと、ちょっとした広場があり昼食タイムとした。道の真ん中に岩が鎮座し、それが獅子の親子に似ている。よって獅子岩と呼ぶことにした。実はこの場所、10年前の冬に大きな荷物を背負い、逆コースで登りつめやっと着いた場所だったのだ。ここにテントを張って山鍋をした場所、そのような思い出話に花が咲いた。



《懐かしの親子獅子岩にて》

さらに稜線を北に歩くと奥池からの道が合流し、道は東に折れ観音山へ。その東峰は、まさに急崖の上にある岩山。眼下に阪神地域が広がる好展望地なのだ。さほど歩いていない我々に対してこの大展望のプレゼントは実にありがたい。

ここから、眼下の鷺林寺までは標高差150m

程度であるが、下見では手強い下りだった。今回は迂回路で途中から沢沿いに歩く道を選んだ。しかも冬での下りなのに、岩があるためか結構な筋肉運動、うっすらと汗をかいてしまった。

鷺林寺では、楠屋さんや高村さんがブームの御朱印をゲット。寺から県道までの道が、昔は平地地だったはずが、これまた結構な下り坂なのにビックリ。我が身に苦笑した。「やはりお年をお召しになられたのだろうか」と。



《好展望の観音山東ピークにて》

さらに、祟りによって県道をも曲げてしまったという夫婦岩をしばし見物し、歩道で西宮の水源であるトイレもある北山池へ。湖面の向うに甲山の穏やかな山がある風景の中で、伊豫さんご持参の大きな栗羊羹の大中型を楽しんだ。そこからボルダリングの聖地・北山公園へ。所々に大きな花崗岩がある自然公園なのだ。岩の上に立てば、西に六甲山系、東に甲山、南に阪神の町が広がっている。公園を出て夙川を渡り越木岩神社へ。

末社の一つに六甲山神社がある。祭神が白山社と同じ菊理媛というのからなんとも親しみがわく。しかし、石製の小さな社だったので拍子抜けしてしまった。越木岩神社のご神体は甕岩。昔は湯気が出ていたという不思議な岩。だから甕岩と呼ばれたという。一帯が石切場であった昔、昭和初期には温泉が出て賑わったとのこともあるという。今では、閑静な住宅地となっている。甕岩は、大阪城築城の際に切り出されそうになったがさすがの御神体。大きな傷は負ったが、そうはさせずここに座りつづけたという。受験祈願で来ていた家族の受験生らしい子供がふざけて岩の前で滑ってしまった。それが原因で猛烈な親子喧嘩が始まった。なんとも複雑な光景であった。

坂道を阪急苦楽園の駅まで下り、駅前の大正庵というソバ屋で山行きを締めくくった。

5. 京都・瓜生山Pw

(報告者 11期 加藤忠好)

・実施日 2020 2/13 (木)

・報告

近畿支部では、実施日と場所は企画者の都合で決めることになっている。参加者の都合まで考えると精神的に煩雑な仕事となるのでそこまで科すのは酷である。特に高齢者にとっては、



《曼殊院門跡勅使門にて》

1月末、会員に次の内容でメールするとともに、近畿支部のHPに掲示した。

『新型コロナウィルスが騒がれています。今後、どのようになるのか心配なところです。みなさんの予定もあろうかと思しますので、まず実施日を2/13(木)と決めました。場所としては、京都・叡電一乗寺駅から瓜生山あたりを考えています。時節柄、下見を省略し、ワングルの山勘だけで歩くのも楽しいかなとも思っています。企画は往年のブッシュ漕ぎメンバーの伊豫さんと加藤が担当します。(1/29掲示)』

当時、京都でも観光地でなければコロナもそれほど心配ではない。むしろ冬だけに天気の方が心配だった。念のため、雨プロとして修学院あたりの社寺巡りも準備したくらいだった。

朝、メールが飛び交う。天気事項が多い。

「おはようございます。明石の雨はあがったようです。」「堺も止みました。北の空は明るいです。」「宝塚から電車に乗り込みました。6時頃降っていた雨も治まったようです。」「高槻は珍しい濃い霧です。とてもこれから晴れて来るとは思えない感じです。晴れて来るのを期待します。」

雨天だった前々日までの予報が一転し、突然の春日和、まさに三宅晴れになった。最悪でも、雨プロも準備してあったので、現地で変更も可能だ

ったこともあり、前日に実施と決めたのだ。

叡電・出町柳駅に定刻集合。東海支部からは、野村さん竹本さんが参加された。電車で5分、一乗寺駅で下車、駅のホームでは間所夫妻が待ちくたびれていた。これで全員がそろった。

京都はその名称からか平安時代を想う人が多いが、応仁の戦乱があったため、京都で追体験できるのは江戸時代以降の文化である。しかし、観光客が集中する超有名地は観光向けの顔、真に昔の京都らしさを求めるのなら郊外の方が良い。その一つが一乗寺、修学院あたりであろう。

駅からゆるゆると坂を登ると、宮本武蔵で有名な「下り松」だ。記念碑が建つ小さな公園で記念写真とトイレ休憩。「舞楽寺跡」の碑を過ぎると登山口。今は一乗寺も舞楽寺もなくこのあたりにある寺は殆どが江戸期以降の寺だ。登山口からは花折断層による急崖をあえぎあえぎ登る。やや平坦になり少し行くと石川丈山の墓。最初の休憩地だ。彼の住居跡という詩仙堂には多くの人が訪れるが、ここまで来る人は殆どいないだろう。

ここからの道は、去年の台風によってだろうか多くの倒木が道を塞いでいた。越えたり潜ったり子供のように楽しんだ。倒木の道を主稜線まで来ると「白幽子旧居跡」まですぐだった。丈山や白幽子のことは良く知らないが、江戸初期の隠遁的文化人のようだ。平安時代の聖人や江戸期の文化人が山を好んだというのを聞けば、聖人から程遠いとしても山好きな我々としては嬉しくなる。



《倒木の多い山道：去年の台風のため》

かつての白川石（御影石）の石切場はパスし、瓜生山へ（山頂着11時半）。山頂は木々が茂り展望は良くないが、ちょっとした広場になっている。昼食にはちょうど良い。伊豫さんがいつものように温かい汁物を作ってくれ、赤地夫妻がぜん

ざいを作ってくれた。ここまで準備し、運んでくれた歩荷力に感謝、そして何よりもおいしい。あくせく歩くのも良いが、山上でこのような食事をしたという体験は良き思い出になる。



《瓜生山頂での憩い》

標高301mの山頂の広場は、中世の山城跡の名残だ。また、瓜生山という名称は、牛頭天王（祇園さん）が播磨の国から京都に移る際に、まずこの地に降臨したからで、その牛頭天王の好物が木瓜だったということのようだ。瓜生山頂には古墳の内郭を思わせるような石造りの立派な祠が残っているが、かつては勝軍地蔵がここに祀られていたのだ。山頂では参るのに不便だろうとて、江戸時代に山麓に遷されたとか。日本では会いにいかなくとも、ありがたい神仏の方が人間に合わせてホイホイと引っ越ししてくれるようである。

山頂から稜線を少し北上すると、かつて出城があった白鳥山だ。このあたりから、京の西に聳える愛宕山や京都北部の市街地が一望できた。



《曼殊院の縁側での日向ぼっこ》

稜線をたどれば比叡山に達するが、途中から林道を使い曼殊院に下った。ここの門前にも天満宮があった。曼殊院は、神仏分離まで北野天満宮の別当を務めた格式の高い門跡寺院なのだ。トイレ休憩も兼ねて拝観。滞在中の参拝者は我々だけ。

縁側に坐し日向ぼっこを楽しみつつ庭園を鑑賞した。滝石から流れる水が山川を下り大河を成し大海に至る様子が岩と砂で表現されていた。

次は修学院離宮の向かいにある解脱山禅華院の拝観だ。この時期だけ釈迦涅槃図のご開帳があるのに合わせたのである。ご住職による涅槃図の説明があり、京番茶と花供曾が供された。京の山行きだからこそできたゆしみだ。裏千家「今日庵」の由来となった大徳寺170世の清巖宗謂が中興した寺ときけば、なおさら親しみがわく。

寺を出て、修学院離宮の正門で記念撮影、鷲森神社では恒例の羊羹の大小中を楽しみ、雲母漬けで有名な穂野出に立ち寄り、魅力屋本店（ラーメン）で打ち上げた。外に出るとすっかり暗くなっていた。歩いてすぐの修学院駅で解散した。

6. 宝塚・大峰山PW

（企画者 16期 井上敏明）

- ・実施日 2020/3/26（木）
- ・中止連絡：16期井上です。（以下要約）

ニュースはこのところ、コロナの話が中心となって、やや食傷気味な今日この頃です。ただ、感染者数は着実に増大し、今や、誰から感染したのか、感染ルートが追えない程、市中に蔓延した感があります。

自粛に対する考え方は色々あり、極度の自粛は、経済を打撃し、個々人が出歩くこと迄、自粛すべきでないとの意見もあります。山中でのコロナ感染は考え難いと思いますが、ただ、OB会開催のPWは、遠方の方であれば長距離の交通機関を利用し、且つ、店に寄り、各所のトイレも利用すると思います。これが元で、若し罹患すれば、わたくし共は高齢でもあり、重大な症状が危惧されます。よって、国の要請に応じ、今回は自粛することとします。

7. 2020 サンマP

（連絡者 11期 加藤忠好）

・連絡：近畿支部発足当時からつづいてきた秋のサンマPですが、新型コロナウイルスについては、なんといっても高齢を誇る我々のような集団が飲み食いをするのが一番危険といわれているので、支部長の金岩さんとも相談し本年は中止することとしました。

近畿支部の活動まとめ (前回報告2019/6月清和源氏ゆかりの地巡りPw以降)

2019 10/29(火) ～10/30(水)	令和最初のサンマパーティ 参加者14名 (企画運営) 間所新、間所美、三宅、金井、加藤忠、加藤智 金岩⑤、伊豫欣⑧、高水間⑧、篠島⑧、森川⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、金井⑮、佐野⑮、 間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、川端⑯、黒崎⑳ < ⑯、㉒などは期です> 実施場所 ビラデスト今津 (滋賀県高島市今津町)
2019 11/21(木)	大塩・のじぎくPw (企画 加藤) 参加者14名 金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、赤地賢⑫、赤地喜⑭、 上馬康⑮、上馬敏⑮、鈴木⑮、高村⑮、三宅⑮、井上⑯ 山陽大塩駅～元大塩村道路元標～元北浜村道路元標～北脇新池～大谷峠～いたち山(昼食)～ 亀岩～一本松山～牛谷峠～赤山～大塩城址～馬坂峠～二ツ岩～日笠山～のじぎくの里公園～ 中澤～大塩公園～すし辰(打ち上げ)～山陽大塩駅(解散)
2019 12/13(金)	京都・松尾山唐櫃越Pw (企画 三宅) 参加者17名 金岩⑤、伊豫欣⑧、篠島⑧、伊豫敦⑩、島林⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、森川⑪、 赤地賢⑫、宇野あ⑮、金井⑮、鈴木⑮、間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、井上⑯ 阪急嵐山駅～松尾山登山口～渡月橋展望地～松尾山山頂～展望地(昼食)～西芳寺川～ 丁塚～東ベンチ～中ベンチ～西ベンチ～ソゴ坂分岐～野鳥遊園～桂坂小学校前BS＝ 阪急桂駅前～GlassHopper(打ち上げ)～待夢アマンド～阪急桂駅(解散)
2020 1/22(水)	六甲・観音山Pw (企画 加藤) 参加者11名 金岩⑤、伊豫欣⑧、篠島⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、楠屋⑭、上馬⑮、 高村⑮、三宅⑮ 奥池貯水池碑～いもり池～ごろごろ岳～獅子岩(昼食)～観音山展望岩～鷲林寺～夫婦岩～ 北山貯水池～北山公園～越木岩神社～大正庵(打ち上げ)～阪急苦楽園口駅(解散)
2020 2/13(木)	京都・瓜生山Pw (企画 伊豫・加藤) 参加者16名 金岩⑤、伊豫欣⑧、伊豫敦⑩、畔山宏⑪、加藤忠⑪、加藤智⑪、赤地賢⑫、野村⑫、赤地喜⑭、 宇野あ⑮、高村⑮、間所新⑮、間所美⑮、三宅⑮、井上⑯、竹本㉑ 叡電・出町柳駅＝一乗寺駅～一乗寺公園～舞楽寺跡石碑～石川丈山の墓～白幽子旧居跡～ 瓜生山山頂(昼食)～白鳥山頂(出城跡)～林道～天満宮～曼殊院・拝観～雲母坂道標～ 禅華院・拝観～修学院離宮～鷲森神社～穂野出～魅力屋(打ち上げ)～修学院駅(解散)
2020 3/26(木)	宝塚・大峰山Pw (企画 井上) 新型コロナのため中止
2020 は以降秋まで	山行き、サンマPなど、新型コロナが終息しないため実施せず



11期 青柳 健二

・実施日 2020年2月14日(金)～16日(日)

・参加者 (4期)佐藤 (8期)野村 (11期)青柳・
片田 (15期)上馬 (18期)堤
(22期)黒崎 (26期)畠山 8名

今年のスキー合宿は、直前に井上さん・宮島さんが不参加となり8名での合宿となりました。そして女性陣がゼロで、やや寂しい合宿にはなりましたが、若手の黒崎さん・堤さん・畠山さんが参加され、それなりに楽しいスキー合宿となりました。

今シーズンは記録的な暖冬で、このスキー合宿期間中も暖かい日が続きました。それでも、少し前の降雪で柄沢ゲレンデも滑走可能となり、スカイラインコースも全面滑降可能となりました。野沢特有のパウダースノーの新雪やダケカンバやブナの樹が真っ白く輝く樹氷には合えませんが、降雪や強風に悩まされることもなく、三日間滑れたのはラッキーであったと言えます。最後の日は、小雨が舞う時はありましたが、ゴーグルに水滴がつく程度で滑るのには影響はありませんでした。三日券を買って失敗したか？との思いも杞憂に終わり、満足感を味わいスキーを終えることが出来ました。

私自身にとっては、1月末に井上さんで行った志賀高原でのスキーの後に古傷である左足首の捻挫が再発し、スキー合宿までには腫れと痛みは治まったものの、足首をテーピングかサポーターで固めてのスキーでした。まあ、これは日頃の運動不足が根にあり、足腰の筋力の衰えをカバーする若さが無になっている歳なのだと思います。知らされたスキーでした。

シーズン前にヘルメットを購入し、このスキー合宿では怪我だけは絶対にせずに帰ろう・・・との覚悟で臨んだスキー合宿でもありました。それが果たせたことでホットしている自分がいます。

そんなことで、滑っている時間よりも休憩時間が長い日もありましたが、それに付き合ってくれた野村さんには感謝・感謝です。おかげで2ヶ所の喫茶室（長坂ゴンドラ山頂駅の喫茶室・やまびこフォーリフト先の喫茶ダンテ）のソフトクリームが旨いと知ったことは収穫でした。

高温のため雪質が悪く、安全に滑ろうとしてスピードに今一つ乗れないスキーに終始してしまいましたが、三日間滑り終えたことで、まだまだスキーを続けられるとの確信が得られましたので、もう一度体を鍛えなおして来シーズンを迎えたいと思っています。



(2.14 夕食 料理が旨い)

そして、今回は若手？スキーヤー3名とジックリ滑り、また語り合えたのは良い経験でした。

黒崎さんは、実質半日だけのスキーでしたが、安定感のある滑りを披露してくれました。リフトに乗っている時にお店の電話予約が入る程の繁昌振りでは、土日は滑れないのは仕方ないのでしょうか、いつかもっとユックリと共に滑りたいものです。

堤さんも、久方振りのスキーと言いながら直ぐに調子をつかんで、スピードコントロールが見事なスキーをされていました。この3月に定年を迎えるとのことですから、来年からは2泊して滑ることが出来ましょう。

山スキーの達人である畠山さん、雪国に住んでいるために、一泊してのゲレンデスキーは初めてだ・・・との事でしたが、夜の宴も含めて楽しんでもらえたようです。

幅広のスキーで高い姿勢のままクルクルと回る滑り方は、急斜面や深雪に対応した独自のスタイルですが、疲れを知らないスキーだと感心しました。夜の宴で、ホームゲレンデの海谷山塊を写真で解説してもらいましたが、良くこんなところを滑るなーと吃驚しました。雪崩や雪庇などに充分注意して滑って欲しいと思います。

上越銘酒“久保田”ご馳走さまでした。



(2.15 12:30 毛無山山頂)

野沢スキーの常連である、佐藤さん・野村さん・片田さん・上馬さん、今回もご苦労様でした。

佐藤さんには、朝日連峰登山や水墨画を写真でご披露いただきました。多芸振りに感嘆します。衰えぬ好奇心と実行力には頭が下がります。スキーもまだまだ続けられましょう。

野村さん、お互い体の故障箇所と上手く付き合う様を工夫して、スキーを続けていきましょう。

上馬さん、いつの間にかスピード豊かに力強く滑り降りるスキーを身に着けておられ驚きました。山を歩き回っておられる基礎体力のなせる業でしょうか。また、油絵画家の奥様をサポートされておられるとは初耳でしたが、お二方のご活躍を応援しております。

片田さんには、変わらぬスピード感覚を見せてもらいました。未だ世に役立つ仕事を続けているとのことですが、久しぶりのスキーで気分転換が出来たことでしょう。次回は半日だけでなく、ユックリ滑りましょう。

今回のトピックを2点、記録しておきましょう。

まず、長坂ゴンドラが今秋までに更新されます。

新長坂ゴンドラは中間駅がなくなりやまびこ駅に直結します。またやまびこレストハウスも同時に大きくリニューアルされるようです。どのように変わるか楽しみです。



(2.15 夕食後)

そして、定宿の“ふるさと”の混雑振りは大変でした。法務局の局旅行と重なったのです。40人の団体と同宿でした。今までは、我々のスキー合宿の一周間前に行っていたのですが、今年から重なってしまったとの事でした。我が方の参加者が少なかったのは、宿にとってはある面幸いでもあったようなのです。

そこで、宿と相談し来シーズンのスキー合宿の日程を前倒しすることにしました。

この変更が吉となるのかは天の神様のご采配によりましょう。地球温暖化により、今年のような雪不足になると、チョット心配ではあります。

まあ、野村大先生のおっしゃるように少雪と多雪の年を繰り返しながら温暖化は進むと思われます。

◎2021年のスキー合宿は、
2月5日(金)～7日(日)

スキーから帰ると、新型コロナウイルスの蔓延が甚だしいことになっていました。その感染力の凄まじさには驚きです。各人が充分に気をつけながら、コロナに負けない体力を確保すべく努める必要があります。

また来シーズン、野沢温泉で元気に滑り、かつ楽しく歓談出来ることを楽しみにしています。

【日程】

①2020 年春 中止

②2020 年秋 9 月 26 日 (土)

【参加者】

■OB

(15 期) 奥名正啓

(19 期) 梶 典雅

(20 期) 久富象二

(22 期) 黒崎敏男

■現役 参加なし

【1】険しいアプローチ

高桑碑を過ぎた 2 番目の沢は排水管に詰まっていた岩石を工事で排出したらしく、以前のようなダム状で水がたまった状態から改善されていた。

例によって、つり橋手前の 500m くらいの間は足元が悪く、草に隠れて見えないが切れ落ちて数十m下まで見える場所もあり慎重に歩行する。

難所のへつりは水量計の手前までもがけ状になってしまっていたが何とか通過はできた。しかし、丸太が渡されているへつりについては最後の大岩が通過できるか不明だったため一旦引き返し、う回路の尾根越えの道を進むこととした。

この道も暫くぶりのため決して歩きやすい状態ではなかったが特に危険はなかった。

全体でダムから 3 時間を要し、過去最長であった。全員疲労困憊した様子でしばらく会話もなかった。ゆっくり歩いたわけではなく、慎重に歩まざるを得なかったからであるが、秋の場合はこれからも同様のことを覚悟する必要がある。



【2】小屋の状態

周りは草ぼうぼうではあったが、外部内部ともに目に付く異常はなく、今のところ安全性に問題は無いと見られた。数年前に構造補強しているためあと 10 年程度の耐久性はありそうな感触。

【3】河原の草刈り

ここ最近、川原で小屋掛けをして過ごしておられた方々がまったく入山していないため、すすきのブッシュがひどく、へつり部分から小屋までは改めて草刈りを行う。

【4】帰路

草刈り時に状況を観察し、何とか通過できそうだったのでへつりに向かい、大岩も何とか乗り越えたものの丸太はつるつる滑るうえ、靴が水没してしまうなどあまりお勧めできない状態。

【5】来年春に向けて

小屋については仮に行うとしても昨年予定していた壁の補修や腐朽した床板の修理程度を実施すればよい程度と見られた。

アプローチ道は再度草刈りを行う必要がある。

高三郎登山道については、我々ができることは限られるが、残雪期を中心に多少の登山者が入山している模様で、その記録によると笹が復活して道がわかりづらくなっている個所があるので、希望者があり、可能であれば中間部の草刈りを行うくらいかと考える。ただし、2 泊を要する可能性があるので事前によく検討してみたい。

かつてを知る方にとっては想像しがたいかもしれないが、日帰り自体が厳しく、むしろ 1 泊して体力を温存したほうが安全かもしれない。



今回は 5 月連休明けを予定しておりますので、参加可能な方はご予約方、よろしくお願いいたします。

12 期同期会実施報告

12 期 津田伸生

- ・期日：2019 年 11 月 2 日(土)～3 日(日) 1 泊 2 日
- ・会場：白山市河内 セイモアスキー場下の千丈温泉 旅館 喜兵衛
- ・参加者： 赤地 賢一、大出 松世、近藤 正興、津田 伸生、西田 一秀、野村 益己、宮島 孝司 (7 名)

11 月 2 日(土)：予定の 15:18 までに参加者全員が北鉄鶴来駅前に集合し、車に分乗して 15:45 ごろに宿の旅館喜兵衛に到着した。快晴で風もなく絶好の天気でしたが、今年は紅葉がやや遅れている感じでした。

内湯の温泉に入ったあと、18:00 から夕食パーティーを行った。山菜とノドグロの卵などの前菜に始まり、お刺身、自家製ナメコ入りの卵料理、天ぷら、茶碗蒸し、栗ご飯など値段の割にはかなり豪華な料理に皆大満足。

話題も、現役時代の山の思い出、それ以降 48 年間の人生体験、最近の山行の話（野村さん、宮島さん）、年齢相応の病気体験（ほぼ全員）、赤地さんのニューファッションとその効果（写真参照）など大いに盛り上がった。近藤さんは所用のため夜帰宅。

11 月 3 日(日)：早朝に旅館前の直海谷川を散策。朝食の後、旅館前で記念撮影。その後、野村さんのご希望で手取溪谷の写真を撮るためバードハミング鳥越のラフティング場へ出かけて散策。

金沢へ戻る途中、獅子吼高原へのロープウェイ乗り場そばの「獅子ワールド館」に立ち寄り、世界中の獅子頭を見学した。

金沢では、兼六園付近の美術館などを訪問する予定が 3 連休の中日で駐車場が大行列だったためあきらめて、全員で卯辰山専光寺の故大出徹さんのお墓(1998 年 9 月に白山中宮の山での事故でご逝去)にお参りさせて頂いた(写真)。

卯辰山から下って、イオンもりの里ショッピングセンターで昼食を食べながら、車に「枯葉マーク?」を貼る前までの数年後に再会することを誓い、14:30 頃に帰路別に解散した。



卯辰山専光寺の故大出徹さんの墓前で
(2019 年 11 月 3 日撮影)



医王山1班登山記録

1年 杉山 翔、水谷冠太、藤原里帆

2020年7月23日(木)、金沢大学ワンダーフォーゲル部の新歓登山で医王山を登った。新型コロナウイルスの影響で自粛期間が続き、活動自体が難しい中で新歓登山を企画・実行してくださった先輩方、顧問の先生には感謝申し上げます。自分たち1年生は初の部活動(登山)であり、メンバーとも初対面だったのでとても緊張した。しかし、登山中に会話をすることで徐々に打ち解けることができた。先輩方も明るくて、優しい方々で登山について何もわからなかった自分たちに一から教えていただき、とても頼もしかった。帰宅してすぐ寝てしまうほど疲れはしたが、充実した楽しい登山だった。

〈準備〉

帽子、タオル、レインウェア、地図、飲み物、昼食、ザック、登山靴、靴下
日帰り登山のためヘッドライト、寝袋などの装備は必要なし

〈当日〉

9:00 医王山スポーツセンター前集合(曇り)登山前に身体をよくほぐしてから登山へ。一列に並んで落ち着いたペースで進み、西尾平駐車場で一旦休憩。ここまでは道路で山道ではなかった。このあたりから雨が降り始める。小雨だったためレインウェアは着なかった。

西尾平駐車場を過ぎてから本格的な登山となった。幅が狭く、草木が生い茂っていた。けれども陰しいコースではなく、一本道が続いていたので迷うこともなく順調に進んでいった。適度に休憩を取り入れながら進み、展望台へ到達。曇っていたが見晴らしがよく遠くまで見渡すことができた。

その後、頂上までの中間点である夕霧峠で昼食休憩をとる。自分はこの時点で脚ががくがく震えたのを覚えている。先輩が用意していたカップラーメンやパンをいただき元気を取り戻した。夕霧峠から奥医王山頂へ到達。東経136.4°、北緯36.3°、標高939.1m

7/23(木) 奥医王山頂



班員で記念に写真を撮りそのまま下山。雨で滑りやすくなっており、登山靴を履いていなかったの途中で滑ってしまった。また、下ばかりに気をとられていたせいで頭上を横たわっていた樹木に頭をぶつけた。雨で視界が悪い分余計に気を付けなければならない。やはりちゃんとしたレインウェアと登山靴はマストだと心から感じた。

約1時間半〜2時間でゴール。先輩の車に乗せてもらってそのまま帰宅

〈登山で学んだこと〉

- ・軽食は安くて軽くて高カロリーな柿ピー、クッキーなどがおすすめ(先輩はボトルに入れていた)エネルギー不足だと低血糖になってしまう
- ・接地は平地と山地で使い分ける。平地はかかとから、山地はフラットで。自分は山地でつま先から接地していたので足の指と爪が痛くなった。

医王山 新歓登山

富取泰治

私は7月24日に新歓登山で医王山に登ってきました。久しぶりの登山でしたので、当日をとっても楽しみにしていました。一方、私にとって初めてのワンダーフォーゲル部での活動でしたので、先輩も同級生の顔も知らず、緊張しながら集合場所まで歩いたのを覚えています。バスに乗ってからは同じ班の先輩がいろいろと声をかけて下さり、少し緊張が緩んだと思います。

当日は残念ながら雨が降っていましたが、話し合いの結果、登山を決行することになりました。

バスで医王山スポーツセンターに到着すると、班で集合し、自己紹介をしてから登山を開始しました。

最初は森林の中を登っていきました。登山中も先輩が声をかけて下さり、登頂まで楽しく会話をして登山をすることができました。今年は新型コロナウイルスの影響で前期の授業はもちろんのこと、サークルの活動もほとんどオンラインでしたので、大学の先輩から大学生活について直接伺う機会がありませんでした。そこで、私ともう一人の新入生で先輩に大学生活やサークルの活動についてたくさん質問させていただきました。特に、授業のことやバイト探しのことは大変勉強になりました。また、もう一人の新入生が高校山岳部出身でしたので、山の話で盛り上がるのができ、楽しかったです。

私はこれまで父と二人で登山をしていたので、隊列を組んで登山をするのは初めての経験でした。隊列を組んだとき、自分がワンゲルに加入したことを実感しました。私が先頭になったとき、後ろを気にせずに進んでしまい、先輩に注意を受けました。仲間同士ではぐれてしまわないよう、これから先頭になったときは後ろを振り返るよう気を付けていきたいです。

標高が上がるにつれ、徐々に森林が開けてきて景色が良くなってきました。当日はあいにくの雨天でしたが、景色がそこまで悪くなかったのは不幸中の幸いでした。金沢市を一望できる場所もあり、新鮮な気分を味わえました。

その後、山頂付近で昼食をとりました。同級生は手作りの美味しそうなサンドウィッチを持ってきたので、ランチパックとイオンの焼きそばパンを持ってきた私はいたたまれない気持ちになりました。

それから下山を開始しました。下りは登山道ではなく、林道を通っていきました。歩きやすくスピードが出る反面、固いコンクリートで足が痛くなりました。



(医王山登山道から 2020 7/24)

下山後はまたバスに乗って麓まで下りていき、解散となりました。

今回の医王山登山でこれからのワンダーフォーゲル部での活動がより一層楽しみになりました。今はまだ新型コロナウイルスの影響でなかなか活動できていませんが、これからの活動に備え、知識や体力を蓄えておきたいと思います。

新歓登山 医王山 4班

中山詩野

行程

9:00 登山開始

14:00 バス停着

7月23日に新歓登山で医王山に行ってきました。登山をするのは久しぶりだったということもあり、前日までとてもワクワクしていたのですが、当日はあいにくの天気でも雨も降りそうな雲行きでした。カッパを着て登山をすることが個人的にとっても嫌で、正直雨が降ったら帰りたいと思っていました。それなのに医王山スポーツセンター前に到着したバスを降りる頃にはパラパラと雨が降り始め、思わずため息が出ました。

現在進行形で雨が降っているせいか前日に降ったからかわかりませんが、足元もだいぶぬかるんでおり、本当に幸先は悪かったように思います。ここまでのいいことが何一つありませんでしたが、実際登山を開始するといくつかとても印象に残る出来事がありました。1つ目は、同じ班の2年生の韓ドラの話です。後方から聞こえてくる「愛の不時着」の良さを力説する先輩の韓ドラ愛が120%伝わってきました。今までそのジャンルに手を出したことがなかったのですが、そこまで言うのならぜひ見てみたいと思いました。2つ目はこれまた同じ班の今度は1年生が持ってきた大きなプリンです。弁当箱いっぱいプリンを作ってきており、一口もらいましたがとてもおいしかったです。山に手作りプリンを持ってくる人を初めて見ました。3つ目は先輩方との交流です。最初バスを降りた時に3年生の先輩が話しかけてくださり、そのあとも登山中に先頭に行く2年生の先輩や、休憩中に、後から来た別のパーティーの1年生や3年生の先輩方が話しかけてきてください

ました。学類の話や初習言語の話、ドラマの話など本当にたくさん話すことができました。初対面の人といきなり山に行くのは不安も大きかったのですが、同じ1年生の人も先輩方もとても気さくな方々ばかりで安心しました。

コロナウイルスの蔓延により例年のような1泊2日の行程ではありませんでしたが、日帰りでも悪天候でもとりあえず楽しい1日となりました。3か月前の登山について書いているので多少内容に事実と異なる場合があるかもしれませんがご容赦ください。

医王山初登山

藤原 皓

新型コロナウイルスの影響により大幅に遅れてしまいましたが、人生初の登山を7月23日に医王山で経験してきました。僕の登った班は1年生が僕のみでしたが先輩方が何から何まで初心者の方に丁寧に教えてくださったおかげで楽しく登ることができました。次にワンダーフォーゲル部で登る機会があれば同学年の人たちとも登ってみたいなと思います。

今回医王山を登って一番に感じたことは装備の重要性です。僕は全く登山をしたことがなく、当然装備も何一つ自前でそろっていない中での登山でした。当日はあいにくの天気で、雨が降っていたため地面はかなりぬかるんでいました。また履いていた靴はランニングシューズでした。そのためお恥ずかしながら何度も何度も滑ってしまい、体も思うように動かすことができませんでした。僕は高校まで野球をやっていたため体力にはある程度自信がありましたが、山とは恐ろしいものです。ここで僕は登山靴がいかに大切か身をもって学びました。しかし、今はある程度の装備がそろったため何でもできるような気がしています。次に感じたことは外で食べる食事のおいしさです。以前から先輩に山で食べる食事は三倍おいしいと伺っていましたが、まさにその通りで山を登り程よくおなかが減ったときに温かいカップ麺を食べたときは感動しました。これからの登山での食事もとても楽しみです。インスタント麺などだけでなく、自分で調理もできるように器具も揃えたいと思っています。さらに今回の登山でだれかと一

緒に登ることは楽しいことなのだと心から感じました。一人でする登山にも当然楽しさがありますが、やはり誰かとお話をしながら一緒に登ることで感情を共有できるのは素晴らしいと思いました。これから先輩方や同学年、また新しく入ってきてくれる後輩の人たちともたくさんお話をして交流を深められることを楽しみにしています。最後に感じたこととして、登り切ったときの達成感は何とも言えない清々しさがありました。道中で転んだことや雨に濡れたこと、そのようなことがどうでもよくなるほど「やり切った」という気持ちがこみ上げてきました。登山の魅力の一つを感じることができたと思います。

残念ながら新型コロナウイルスの影響でワンダーフォーゲル部としての活動はほとんど行えていないのが現状です。本来ならばとくに夏合宿も経験し、山の知識もたくさん増えていたのかもしれませんが、それを嘆いては何も始まりません。徐々に新しい環境の中で部の人たちと会う機会も増えてきているので、それを大切にこれからの活動に向けて準備をしていきたいと思っています。

写真：医王山休憩所からの景色(2020 7/23 撮影)



写真：西尾平休憩所にて (2020 7/23 撮影)



8月2日（日）、3日（月）と、木曽の御嶽山（3067）に息子と行ってきた。息子とは毎年息子の会社夏休みを利用して、ここ6年ほど山旅をしてきた。昨年は東北の朝日連峰、一昨年は飯豊連峰。今年は私の希望もあり、御嶽山にした。いつも白山頂上から雲海に浮かぶその秀麗な山容に魅せられ、古くから信仰の山として名高い名山に一度は登りたいと以前から思っていた。また、勤務先の知人Sさんが2014年9月27日の御嶽山噴火で残念にも被災され、亡くなられたのを現地で慰霊したいとの思いもあった。

一日目：金沢6:00 発の「かがやき」で長野へ、長野で息子と落ち合い、「しなの」で木曽福島へ。我々が利用した登山コースはもともと古くから登山道が拓けたといわれる黒沢口。それもロープウェイを利用して7合目まで登る最短コースである。木曽福島駅からバスで1時間強で御嶽山ロープウェイ駅へ到着。ロープウェイで標高2150の飯森高原駅へ12:15着。ロープウェイの駅では白装束の数人のグループに何組か会った。さすがは信仰の山である。

ここからいよいよ登山開始。曇でひんやりと涼しい。登山路は多くの登山者が歩いたであろう横木の階段状の道。あたりはオオシラビソやコメツガの林である。ときおり、すれ違う人がいるが静かなゆったりした山道が続いて気持ちがよい。13:40 八合目の女人堂小屋(2480)に到着。昔からの信仰登山の人達が休んでいったであろう雰囲気のある小屋。その横には多くの「霊神碑」とよばれる板状の石碑が建てられ、石仏が並ぶ霊場がある。ここが森林限界で後は岩山の様相を呈してくる。石室山荘を過ぎて九合目となる。当初は二ノ池の小屋に向かう予定だったが、明日の天候が悪い可能性もあったので、頂上・剣ヶ峰を目指す。ガレた尾根坂を上りつめ、今般の噴火以降に新設されたコンクリートシェルターを通り過ぎて長い石段を上り、御嶽神社奥社のある最高峰剣ヶ峰山頂に到着した(15:50)。登り始めてから3時間余り。生憎の曇でガスもあり、眺望が利かないのは残念。写真を撮って、階段を下ったところにあ

る2014年噴火による被災者慰霊碑に向かう。小さな「安らかに」と書かれた慰霊碑。ここで、持ってきた蠟燭と線香をあげて知人Sさんの当時を偲び、手を合わせてしばし黙祷した。共に登られた奥様は重傷を受けたが生き延びられたと聞いている。どのような状況だったのだろうか。運命というほかはない。この噴火で死者は58人、行方不明者は5人、戦後最悪の噴火災害となった。頂上から、噴火灰で一部を覆われた二ノ池を回って二ノ池山荘（今期は一般営業中止）を過ぎ、その奥の二ノ池ヒュッテに到着した(16:30)。宿泊者はわれわれも含めて3グループ7人。それぞれ個室でゆっくりと休むことができた。

8月3日。早朝4時起床、4:25 小屋発、4:50 頂上（剣ヶ峰）着。雲の間から真っ赤なご来光を見ることができた。雲海の中に、乗鞍、槍、穂高。また中央アルプス、南アルプス、その奥にうっすらと富士山をみることができた。南アルプスでは、以前に息子と歩いた北岳なども確認できた。白山方面は雲で全く見られず残念。二ノ池ヒュッテに戻り朝食。7:00 小屋を出発。摩利支天山(2959)に向かう。サイノ河原の広大な谷を隔てて、摩利支天山の尾根が台形上にどっしりと横たわる。その尾根にとりつく崖地をトラバース気味に登る。この崖地はこれまでのコースとは違い、多くの高山植物が岩の間に咲き乱れており、楽しい。7:50 摩利支天山頂上に到着。8:50 二ノ池ヒュッテに戻り摩利支天山尾根を眺めながらしばし休憩。9:10 出発。11:05 ロープウェイ、11:55 バスにて木曽福島駅へ。列車待ち時間がたっぷりあったので、駅前のレストランで二人で祝杯を挙げた。Sさんの慰霊もでき、内容のある良い山旅であった。



御嶽山・剣ヶ峰頂上直下の慰霊碑（2020.8.2）

東北・紅葉の山旅・ヤジキタ道中

8期 篠島益夫

この山旅の参加者は8期の篠島、高水間、9期の山中の3名でした。

2015年10月12日～15日の3泊4日で実施した紅葉の山旅では荒天の為、肝心の栗駒山、秋田駒が岳は途中下山、八幡平も積雪通行止めで頂上付近の紅葉ウオークは断念という旅であった。

今年はそのリベンジとして10月5日～8日の3泊4日で山は栗駒山・秋田駒が岳・八幡平をプランした。

集合は5日仙台駅10時で、篠島・高水間は神戸から仙台行きのSKY空便、山中は東京から新幹線で集合。SKYは早い予約で神戸～仙台便は往復で@10000で済ませ、宿泊は山中さんがGOTOキャンペーン利用で2015年と変わらぬ予算でグレードは大幅アップで予約、地域クーポン券でお土産も調達、いろいろな工夫で使用金額は2015年のおよそ半額近くになった模様。

10月5日(月)

仙台集合後はレンタカーで平泉へ、以前の旅で見落としたメンバーもある中尊寺・金色堂・毛越寺を巡り、翌日の栗駒山登山基地の須川高原温泉に余裕で到着、温泉と夕食を堪能した。

今日のチェックインで確保したクーポン券は翌日中までしか使用できない決まりなので食後は売店で買い物、秋田名物の「いぶりがっこ」(たくわん)は瞬く間に棚が空になった。

就寝前の夜空は星が綺麗で安心していましたが夜中かなりの雨が降ったらしく、翌日はぬかるみ登山を余儀なくされた。



(10月5日平泉・毛越寺 山中・高水間 篠島撮)

10月6日(火)

温泉の湯が川となって流れる須川温泉登山口を8時30分に出発、始めは温泉の蒸し風呂に通うコンクリート道だが、これを過ぎると泥んこ道、沢を渡る個所も3ヶ所ほど出て来る。

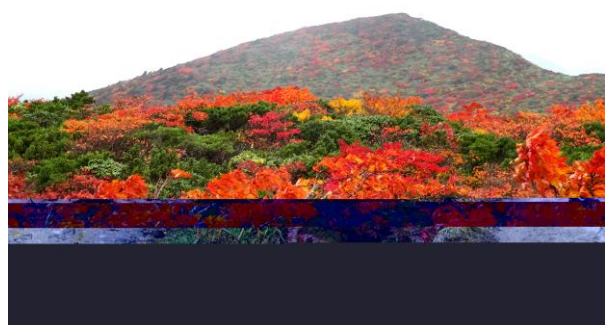
予定コースは2015年に雨の中を登った昭和湖を通る須川コースだったが登山道崩落の為、復路に予定の自然観察路コースを登った。

泥んこ道には悩まされたものの紅葉の眺めは錦を織りなす感じで美しい。栗駒は笹と大木が少なく、落葉灌木が主なので黄葉、紅葉、緑が斜面を覆い尽くして美しく見えるようだ。

コースは名残が原・苔花台と標高を上げて行くほどに黄葉・紅葉も鮮やかになる。



(10月6日栗駒苔花台 山中・高水間 篠島撮)



(10月6日 栗駒頂上と紅葉の展望 篠島撮)

頂上到着は11時25分でした。

6日は曇り後晴れの天候だが寒風が強くアノラック着用、頂上では濃いガスと寒風に吹かれて行動食だけで20分足らずで下山開始、直後からガスが晴れて素晴らしい紅葉の展望が続く。

下山開始は11時45分、泥んこ道は変わらないが、須川コースが崩落で通れないので往路と同じコースを下るが、晴れているので登り以上に良い

展望に感嘆しながら下った。

山地図での今日のコースのタイムは登り下り合わせて 245 分だが、我々は 360 分を要した。これはコースタイムの 1.47 倍のタイムで、今年はコロナがらみで山行機会も少なかったとはいえ、ちょっとショックな数字である。

今回の 3 人は同年生まれであり、ほぼ揃ったペースであったので、今後はコースタイムの 1.5 倍でのプランが妥当と言う事なのだろう。

10 月 7 日(水)

この日は予定では秋田駒が岳と八幡平頂上付近の紅葉の 2 ケ所とも登ろうという計画。

2015 年は八合目登山口までレンタカーで行ったものの、強い雨と風で登山を断念した。今回はうす曇りではあるが雨の心配は無さそう。

6 日宿泊の田沢湖高原温泉を 8 時過ぎに出て 8 合目登山口を 8 時 35 分に出発して高度をかせぐと途中ピークの片倉岳には 9 時 20 分に到着した。

登山道も昨日の栗駒とは違い火山灰質で快適であった。片倉岳を過ぎると急登部分は少なく、高原状の坂道を上り続けると最後は急登が待っていた。間もなく 9 時 50 分には男岳・男女岳分岐の阿弥陀池に着いた。

阿弥陀池から上部はガスっているので、展望は望めず最高ピークの男女岳だけを登頂する事とした。池を 9 時 55 分に出て男女岳頂上には 10 時 20 分に着いた。



(10 月 7 日 秋田駒が岳頂上 高水間 篠島撮)

ガスと風で寒いので写真だけ撮って急ぎ直下の阿弥陀池避難小屋に入った。かなり密な状態ではあったが、ここで軽食休憩する。

この日も小屋から下山を始めると晴れてきて展望も良くなり紅葉の山々が美しい。

栗駒とは違い山の斜面は笹が極めて多く、山を覆っているので、紅葉は栗駒のように錦の面にはならず、紅葉が点々見える感じである。



(10 月 7 日 片倉岳～阿弥陀池高原 篠島撮)

阿弥陀池小屋を 11 時 5 分に出発、当初計画の下山道を避けて往路と同じ道で紅葉の展望を愉しみながら下山、12 時 20 分には 8 合目登山口に着いた。

この山でも往復の山地図のコースタイム 155 分のところ 225 分を要した。これはコースタイムの 1.45 倍で前日の栗駒山とはほぼ同じであった。

この日は八幡平頂上のウォーキングも予定していたので 8 合目駐車場から八幡平頂上駐車場に向かったのであるが、R341 のこの辺りには GS が無いことが解り、八幡平との分岐を越えて北の鹿角市まで給油に出かけて、ここから U ターンして再び八幡平に向かう事になりロスタイム 50 分、この為、八幡平の頂上駐車場に到着した頃には、それまで晴れていたという山頂部はガス、止む無く頂上での記念写真だけで、宿泊予定の新玉川温泉に向かった。

既に日は暮れており、使い慣れないカーナビと R341 の改修事故に伴う点滅信号による錯誤が重なって目的地の新玉川温泉の入口を通り過ぎてしまった。

気が付いて U ターンして戻るも本来の所要時間の倍の 2 時間もかかって通り過ぎた新玉川温泉に到着する、というハプニングというかボケというか、この日は GS とカーナビ、道路工事がらみで車での移動時間は合計 2 時間近いロスでした。

宿泊の新玉川温泉には 19 時 55 分着という有様でした。今までの車での山旅でもこんな事例は少なかっただけに 3 人ともショックで夕食も意気が上がりませんでした。



(10月7日 八幡平頂上 山中撮)

10月8日(木)

この日は秋田県の新玉川温泉から東北道に出て仙台へというこの旅の行程では最も長い車で移動ですが、昨日のボケもあるので慎重に交代運転、松島には昼過ぎに着いて地元の美味しい寿司屋で昼食、松島展望台や伊達家の瑞巖寺をゆっくり見て仙台市内の青葉城址へ、その後は早めにレンタカーを返して仙台駅で今日まで有効というクーポン券でお土産を調達、たっぷりお土産が出来ました。

この仙台駅で仙台空港へ向かう二人と友人と待ち合わせする山中さんの2組に分れて解散。

この日は新玉川温泉出発以降、万事問題なくそれぞれ予定の帰路につきました。



(10月8日 仙台市青葉城公園 山中撮)

山での脚力ダウンの現実に加えて山旅3日目のGSとカーナビが絡んだボケ事件は、3人にとって

は今後の生活に関わる現実を知る良い機会だったのかもしれない。

オツムの劣化は3人とも激しく、母校の名誉の為、「金大卒」は今後は世間では言わないようにしよう、という貴重な意見も聞こえていました。

終わり



もうひとつの鋸山（のこぎりやま）

9 期 吉田洋次郎

昭和 46 年に結婚して千葉県に住むようになってまもなく 50 年になります。

酒の席などの話題で「千葉県で一番高い山は？」と尋ねると、多くの人が“鋸山”と答えます。でも残念ですが、外れです。正解は“愛宕山（あたごやま）”です。と言っても房総半島には愛宕山が 3 座あります。

銚子市内には標高 74 メートルの丘（山頂には「地球の丸く見える丘展望台」があり、屋上に設置されている方位盤には南西の方向に“フィリピン”も刻まれている。ひょっとすると晴れた日には見えるかも？）、富津市内にある愛宕山は 204 メートルです。ニホンザルを飼育する「自然動物園」があります。

南房総市嶺岡山地の愛宕山が 408 メートルで千葉県一の高さです。因みに愛宕山は日本で一番低い都道府県別の最高峰です。この山があまり知られていないのは航空自衛隊の基地内にあるので事前に申請しないと登れないからです。また、頂上からの眺望もあまりよくないようです。

でも、訪問者には「千葉県最高峰登頂記念証」が頂けるとのことです。

鋸山は標高 329 メートルですから愛宕山には約 80 メートル及びません。

鋸山は JR 内房線の駅に近く、登山ルートは 5 つあってどのルートも 3～4 時間で登れます。またロープウェイでも登れるため多くの観光客が訪れ、知名度が高いのです。眼下に東京湾が一望でき、天気の良い日にはもちろん富士山も眺められます。



【鋸山のロープウェイ】

さて、表題の「もうひとつの鋸山」ですが、スペインのバルセロナの近くにモンセラートという山があります。日本語に訳すと“のこぎり山”です。多くの奇岩が連なった岩山の連山で最高峰は 1,236 メートルです。



【モンセラート】

バルセロナからはカタルーニャ鉄道とロープウェイ（または登山鉄道で）を乗り継いで約 1 時間です。ゆっくり見学を楽しんでも十分日帰りが可能です。

天気が良い日には北の方向にピレネー山脈（その先はフランスです）を望むことができます。

また世界遺産で有名なバルセロナで建設されているサグラダ・ファミリア（聖家族教会）の設計者アントニオ・ガウディがその作品に大きく影響を受けた山としても知られています。



【モンセラート修道院】

その中腹あたりに 9 世紀に建てられた修道院があります。そこに祭られているのは幼児を膝に抱き右手に大きな球を持つ聖母マリア像です。このマリア像は肌が黒いので“黒いマリア像”と呼ばれています。

数年前、私の妻の病気が再発し三度目の手術をすることになりました。担当医からかなり難しい手術で後遺症が出る恐れがあり、最悪の場合歩行できなくなるとの説明を受けとても悩みました。



【黒いマリア像】

当時スペインに住んでいた娘が「モンセラート修道院の黒いマリア像が持つ“球”に触れて祈るとお願いことが叶うと言われている」という話を教えてくれました。

藁にもすがる思いで私は妻とモンセラート修道院を訪れました。内部に入ると正面の小高いところにマリア像が祭られていました。薄暗い階段を上りマリア像の持つ球に触れて妻の手術が成功し、健康が快復することを願いました。



【モンセラートにて】

帰国後、妻は十時間以上に及ぶ手術に耐えました。術後はしばらくの間歩行も困難でしたが、リハビリを続けたところ幸いにも今では両手で杖

を突きながらかなり歩けるようになりました。

もし、機会があれば再びモンセラートを訪れて黒いマリア像にお礼をしたいと思っています。



イギリス湖水地方を歩く

10 期 吉野和彦

2008 年 5 月末から妻と英国旅行をするなかで、湖水地方に 3 泊し、フットパスなどを歩いたことの道中記です。

6 月 2 日 エディンバラから南のカーライルに列車で行った。車窓には荒野、牛や羊の牧草地、ゴルフ場などスコットランドの風景が広がる。

カーライルはローマ皇帝ハドリアヌスが築いたブリテン島を横断する長城の西端の城塞の町。街歩き後、湖水地方のバスのフリーパスを購入し、バスで湖水地方北部のケズウィックに向った。町の近くにダーウエント湖がある。湖畔の遊歩道を歩く。対岸はなだらかな草地の広がる山々、湖には木の茂った小さな島々、水鳥も多くいる。それらを眺めながら森や多種の羊が草を食む牧場の中も歩く。この時、牧場境界の柵の越え方を知った。町に戻りウインダミアに向った。二階建てバスの最前列に座った。バスは丘陵地帯の狭い道をかなりの速度で走った。制限速度表示 40、たぶん単位はマイルであろう。前方に枝を見ると思わず頭を下げ、丘の上り下りではジェットコースター乗車の感覚であった。しかしゆったりと広がり変化に富む景色は楽しめた。

湖水地方の中心ウインダミアで予約した B & B (民宿) に入った。一段落後、裏山のオレストヘッドに登る。頂上から夕暮れのウインダミア湖が一望できる。穏やかな静けさに包まれている。下りの森の中は薄暗かったが木々の狭間から透ける仄かに明るい街が目標となって迷わなかった。オーナー推薦のレストランで食事をした。

6 月 3 日 朝、食堂で隣のテーブルの恰幅の良い年配の男性から話しかけられた。(彼はここに一週間滞在しマス釣りを楽しむ。この後毎朝の彼との会話は楽しかった。)

バスでボーネスに向かった。車窓から物置小屋の横に再利用のためか屋根葺き石板が整理して積み上げられてあるのが見え

た。日本では「♪ 薨の波と雲の波・・・」は絶滅危惧歌詞であるが、西洋では千年以上続く石の文化が生活に染込んでいることが理解できる。

三日月形のウインダミア湖の中央部を連絡するフェリーで対岸に渡る。距離 500m、車両 10 台は乗るフェリーの推進方法に感心した。それは両岸から緩く張られて水中に没しているワイヤーを、船の専用車輪で手繰り寄せて移動するものである。スクリュエ推進法に比べてエネルギー効率が良いのでエンジンは小型で騒音が小さい。不要な水中流を起こさないで水底の状態を乱さないなど環境保護が徹底されている。

対岸に渡って、ニアソーリ村を目指しフットパスを登る。森や牧場や田舎道など次々に代わる道を歩く。村のヒルトップにあるベアトリックス・ポターの家まで誰にも会わなかったが、そこは観光客で賑わっていた。その広くはない庭にはいろいろの花が咲き、周囲に溶け込む石造りの家屋との調和はポターの世界そのものである。

ホークスヘッド村に向かった。エスウェイト湖西岸の車 1 台なら通れる田舎道を歩く。道を外れ湖畔で休憩をした。静かで穏やかな湖である。湖を過ぎると緩やかな山の裾と広い草原の間を歩く。約 3km の行程、人も車も見なかった。

ホークスヘッドで食事後、ネットで入手した地図を見ながら村を周回するフットパスに移る。幾つかの牧場を通り抜け集落に入る。地図のルートは家並で右折し小道に入ることになっている。しかし見つけられない。付近を注意深く探したがだめだった。地元の人に教えてもらおうとしたが人の気配がない。困惑していると中年女性二人連れのハイカーがやってきた。彼女らに事情を話すと、近くの屋敷の閉じた門の前に行き脇扉を開けた。屋敷の庭を通り抜けるのがルートである。(後で知ったが湖水地方には個人の敷地に誰でも通れる個所もある)

森や牧草地を抜け高台に登る。ラターバローである。ウインダミア湖や周囲の山々も見える。天気が良く爽快であった。しばらく休憩し眺望を楽しんだ。ルートを進めた森の中で、先ほどの彼女らに出会った。私たちと逆回りであった。お礼を述べ少し話をした。

つぎに村の家並みが見渡せる場所になる。初めて見る風景だが昔懐かしい田舎の風情を感じさせるものだった。村に戻り、ワーズワースが通った学校や教会を見て回った。

道に迷ったことや人と出会うことが少ないことから、明日予定の山岳地帯のルートにネット入手地図では不安を感じ、書店で等高線図を買うことにした。1/25000 の地図があった。標高はメートル表示、距離はkmとmile の尺が記載されてある。

村からバス、アンブルサイドで乗り換えウインダミアに帰り、パブでビールと夕食を取った。

6月4日 バス時刻の関係で朝食を15分早めてもらい、アンブルサイドに向った。バスの乗り換えに時間があり、近くに独特の形の尖塔が見えるので教会に行った。尖塔はノルウェー風のゴシック(バイキングの影響か?)である。バスでニューダンジョンギルに行った。9:30 標高 90mから登山を始める。小川に沿って進む。小さな谷に入る。勾配が付きだし沢となりさらに急登になる。周囲の木々は背丈を徐々に低くし、そして樹木はなくなり草のみになる。登りきるとスティックル・ターン(氷食でできた小湖)標高 500m。岩峰が池の向こうに壁のように覆いかぶさり岩石と緑の絨毯が広がっている。ここから上は北アルプスの雲の平や黒部五郎岳カールの様相を示す(但し樹木のない)。

休憩後、池を過ぎ岩壁の端の急な岩山を150m登る。高度を上げると視界は広がり、山々や点在する小湖や草地に羊の群れも見られる。岩のある草原に出る。ガスがでて視界が悪くなったが、草原の道は細くても整備されており歩きやすい。

突然前方に道を塞ぐ白い岩のような物が見えた。何故邪魔なものを除かないのか訝しげに思いながら進んだ。目前になり物体が明瞭になった。羊の死体であった。羊の死体はこの後も見た。この広い山塊域では羊を春に放し秋に収容する間の出産や死亡は自然任せなのか?と思った。

暫くしガスが消え、ルートを進めてこの山塊の最高点ハリソンスティックル標高 736mに向かう。斜面は草地から徐々にガレ場となる。頂上で休憩し360度の眺めを楽しむ。眼

下にスティックル・ターン、遠くにウインダミア湖、山々は荒涼と広がっているが、山裾から谷間に広がる緑には暖かい豊かさが感じられた。



(写真上：ウインダミア湖遠望)

写真下：スティックル・ターンと山々)

別ルートに登山者が3人いた。谷を挟んでもう一つの峰にも上り休憩。そして登りとは別の急な道を一気に下りダンジョンギルに戻った13:30。下山後、ウォーカーズバーの爽やかなテラスでビール。一汗かいた後なので言うことなし。サンドイッチの昼食。

バスでアンブルサイドに戻った。グラスミア行きバス時刻板を確認中、妻に言わせればハリソン・フォード似の男性がアンブルサイド行きのバス番号を教えてくれた。彼も夫婦で旅行中とのこと。同じバスに乗りワーズワースの住んだダブカテッジで同じく降りた。

博物館となっている彼の住居を見学した。途中から日本にも旅行したことがあるオーストラリア人の母娘も加わり会話が弾んだ。私たちは博物館を出た後、グラスミアに向けて一般道を歩き、町の手前でライダル湖西岸のフットパスに入りアンブルサイドに向かった。日も傾きかけた静寂の中で、ライダル湖の幾つかの緑の島影が印象的であった。湖が川となり歩みを進めると、いつの間にか人

家の敷地に入り込んでいることに気付いた。川の方を見ると飛び石伝いに対岸に渡れそうで、一般道にも出られる。時間も迫っているのでルートの詮索をやめ、一般道に出た。少し歩くとライダルマウントのバス停があり、そこにあのハリソン似の人がバスを待っていた。こちらの予定を話すと、彼はここでバスに乗らず道路の少し先で右折し田舎道を行けばアンブルサイドに行ける。その道は lovely walk であると話した。助言を実行した。山の端に日は沈んでいるがまだ明るかった。近くを流れる川の向こうに草地が広がり、その先的一端からは遠くのアンブルサイドの街並み見える並木の田舎道はまさに lovely の表現通りである。歩いているとこの田舎道は町はずれに向かっているようだ。その場合、街中でのバス停探しが必要だ。町全体を注意してみると、朝立ち寄った教会の独特の尖塔が分かった。橋のある場所で川を渡り、草地を突っ切ったり、野道を歩いたりしてその教会に向かった。バスでウインダミアに着いたのは 20 時前であった。湯上りにくつろいで飲食したくなり、スーパーマーケットでワインとパンと総菜を買い、宿に帰った。

余記

6 月 5 日 ロンドンへの帰途、ハワースのブロンテ姉妹の住居(博物館)に寄るため、ウインダミアから列車でランカスターに向かった。この列車乗り継ぎに時間があるので駅周辺の街歩きをした。大きな城壁が見えた。これは幸運だ。なぜならヨークの街歩きでローマ帝国時に造られた市街地を囲む城壁を歩いていると、バラ戦争の資料が展示されていた。それなら対戦相手のランカスター家の資料も見たいと思っていたからである。閉じた城門に近づき、入場手段がないかを探した。城壁に小さな銘板が嵌め込まれてある「所有者は英王室、借用者の用途は刑務所」。ランカスター城の使われ方とエディンバラの王立植物園が無料であったことを考えると、英王室のしたたかさを再認識した。

列車でキースリーに行き、バスでハワースに。ブロンテ姉妹の住居には多くの観光客が訪れていた。内部を見学後、建物の横を抜けて「嵐が丘」の舞台となったペニストンヒ

ルに登る。ここには誰もいなかった。曇り空で風が吹き、丘は地を這うようにヒースで一面に覆われている。寂寥感を覚えた。



（タイトル背景は、下述のマナムニパヤーでの壁面装飾の翡翠）

『やまざと』昨年号までに続いて、今回も、近年の外国での写真を紹介させていただきます。

その11-1：微笑みと安らぎ・翡翠と黄金の国、ビルマ（ミャンマー）～ まず、古くからの都市ほか

2017年の春には、ビルマ（1989年に英語国名はミャンマーに）に行きました。（株）西遊旅行のツアーですが、ツアーでは廻らない地を見るために先行して現地での合流です。まず、ツアーには含まれないヤンゴン（旧称・ラングーン）などを中心にご紹介を。英国統治時代が偲ばれる市街です。



英国時代のラングーン駅は、実に見事なものです。交通の主役は今や道路と空路なので、駅ホームでは自炊や同行の犬も。ふと見ますと、「回送」「ワマン」表示の日本製中古車輦（下左）にはビックリ。



熱心な仏教徒の国でもあり、寺院や仏塔（パゴダ）は、黄金と翡翠で飾られます。下左は緑豊かなヤンゴンではほぼどこからでも見える、黄金に輝くシュエダゴンパゴダ。下は、マンダレーのマナムニ（仏陀座像）パヤー（寺）で、奥には金箔に包まれた仏像。下右は、お寺での得度會^{とくどえ}の人達。



ビルマ北方の山岳地帯は、世界でも珍しい^{ひすい}翡翠の産地で、各種の宝石も産します。右の写真のように加工して、販売されています。

ビルマの女性には、小さい頃から、「タナカ」の樹木粉末を、化粧を兼ねた日焼け止めとして、^{ほお}頬に塗る習慣があります。次ページ写真のように、塗らない人から、木の葉の丁寧な模様まで、様々です。一方では、その右の女学生さん達のように、タナカ離れも進んでいます。



（ルビー・サファイア・エメラルド・月長石の加工品と、翡翠の腕輪）

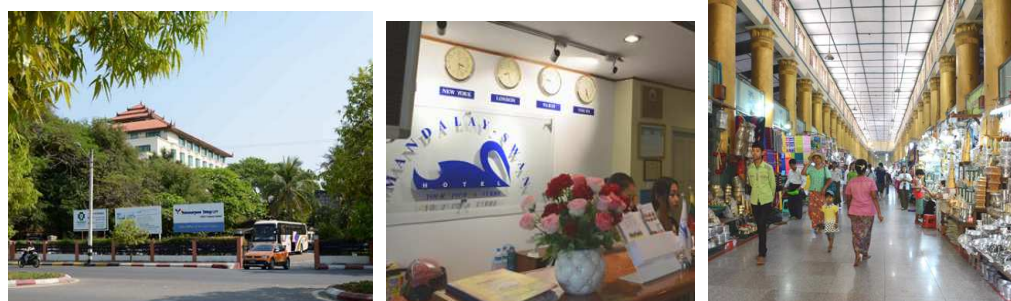


(「タナカ」の人達。上写真の中央はパオ族で、ほか総てはビルマ族の女性。)

前ページは、植民地時代に栄えたラングーン(現・ヤンゴン)でしたが、続いて、ビルマ最後の王朝のあったマンダレーについてもご紹介を。なお、遺蹟や街の位置関係の理解のために、右図をご覧ください。マンダレーは、豊かな緑の中の静かな都市です。冬に避寒のために訪れる欧米の人たち向けの瀟洒なホテルもあり、立派な市場も。



(ツアーの行程図:(株)西遊旅行提供。)



下は、ビルマ最後の王朝となった、マンダレーのコウバン朝王宮と、シェナンドウ寺(僧院)を。ともに木材をふんだんに使った建築物で、後者の内外を飾る精緻な彫刻は、チーク材を使ったもの。



ビルマの古い街では、朝早くに出歩いておりますと、托鉢僧の集団によく出逢います。マンダレー近郊で、僧侶 1000 人と言われるマハーガンダーヨン寺では、10 時頃からのそれが有名で、今や観光地化です。むろん、僧への寄進の人達も大勢が参集しておられます。托鉢への寄進だけでは、食事がまかなえませんでした、厨房も(下の中写真)また、大変そうな。

3 月は、日毎に暑くなり始める乾期のただ中で、連日の晴天です。下は、マンダレー丘と言われている山で、トラックの荷台で登頂して更にエスカレータで。夕涼みを兼ねた、のどかな日没でした。



その11-2:ビルマ(ミャンマー)の中部 ～ 前ページ「行程図」の中程、古都パガン周辺

ビルマは人口の9割程が仏教徒ですが、古くからの精霊^{ナツ}信仰もまた併存しています。ナツ信仰の対象は、自然に宿るもののほか、下写真のホッパ山(777段の階段を徒歩で：降りも大変)で見るような、生けるが如くの人姿で神格化したものもあります。厄除けや現世の幸せが祈られています。



パガンは、9世紀のビルマ最初の統一王朝の地です。下の左と右は、5層のテラスのあるシュエ
サイド^{パゴダ}仏塔(中写真)からの俯瞰です。広大な遺跡群ですので、馬車か車で廻ります。パゴダとは、
釈迦仏の遺骨(仏舎利)や経文を納めた塔ですが、仏像のこともあります。下はそのテラスでの日没。



下は、11世紀のシュエージーゴン(「黄金に囲まれた」の意)パゴダ。大勢の参詣者で賑やかです。
回廊の一角に据えられた岩面に小さな窪みがあり、その水面に写る仏塔先端を見た人には幸せが宿
る、との伝承があります。本稿でそれをご覧の皆様にも、きっと幸せが。下右は、ほぼ同時期建設
のアーナンダ寺で、本堂中央には巨大な4体の仏像が四方を向いています。



ビルマは、大東亜戦争末期の昭和19年春に、日本軍が英国植民地のインド北東部への進攻を目
指したインパール作戦の発源地ですが、兵站を無視した杜撰な作戦によって、雨期と重なったその
退却路が白骨街道といわれたように、作戦参加の約10万の日本兵のうち約7万人が戦病死・餓死し
ました。下左は、タビニュー寺(パガンでは一番高い65m)の脇にある日本軍第33師団の慰霊碑。

右側3枚は伝統的な操り人形劇です。人形師はサービス旺盛で、各客席を廻ってのお布施集めも。



その11-3:ビルマの中南部 ～ インレー湖周辺と、「行程図」中では下のゴールデンロックなど

ビルマ東部のシャン高原にあるインレー湖です。湖岸の一带では小舟での移動が普通です。左は、湖中で出逢った漁師さんのご愛敬。続けて、宿泊コテージでの夜明けの眺めと、同宿だった金満中国有閑ご婦人方からの依頼撮影。小生、写真家と間違われたようでしたが、ホーズの取り方も仲々の。



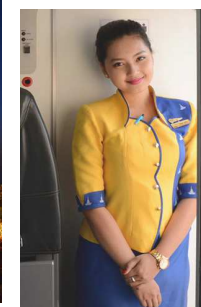
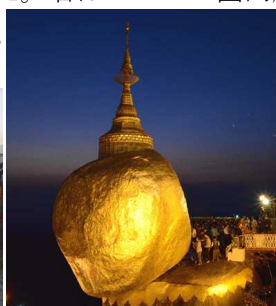
小舟で行く、湖畔のフンドゥパゴダと、その堂内には金のお団子に見える5体の御本尊。参詣者が金箔を貼り続けた結果で、以前は下の白黒写真のように仏様の形が判ったそうです。金箔貼りに壇上に登れるのは、ここでは、外国からの観光客と言えども、男性のみです。

右は、この一帯で盛んな、蓮の茎からの糸(藕絲)を交えた織物(日本の伝統工芸にもあり)の工房で。



ビルマ最後のご紹介は、大手旅行社のツアーでも多分含まれる、チャイティーヨ山のパゴダ(ゴールデンロック)へ。遠くに、山の端から転げ落ちそうな岩と人ばかりが見えてきます。大勢の人が岩を押しています。よく見ると隙間が見えて、ゆっくりと揺れていますが、不思議なことに決して落ちません。巡礼者が貼る金箔に覆われていますが、ここでも女性は近寄れずに、少し離れた祭壇で。

このあと、ツアー団から離れて、タイ国へ行きました。右はビルマの国内航空と、バンコクへのタイ国際航空での、ともに、魅惑的な乗務員さん達です。



以前からタイへ行くごとに、大東亜戦争末期に日本軍がタイからビルマへの物資運搬のために、連合軍捕虜と現地雇用者動員で建設を進めていた泰緬鉄道(タイめん)、奥へと辿っていました。ついに、この年に、ビルマ国境の三仏塔峠(Three Pagodas Pass)に到達しました。次号ではそのご紹介を。

ここで、念のためのご説明を：拙稿ページは、全部を筆者が作ったものです。前年号からは、投稿は個人4ページ・支部などは8ページ以内、写真は1ページにつき2枚まで(その挿入編集に手間(経費)を要す故か?)とお定めになりました。じつは以前からですが、編集経費低減に少しは資するようにと、拙稿は上述のように自身で編集してPDFで提出しております。それゆえに、規定とは関わりなく写真がたくさん掲出のページとさせて頂いておりまして、製本の際に左右バランスが崩れるかも知れませんが、それは筆者の責に帰すべきものです。

(一連の稿は、KUWV-OB会のHP中、「会報Web版」からご覧頂きますと、カラーでの閲覧が可能です。)

HP上でご覧頂く場合は、拡大してご覧下さい。拙稿挿入写真はA3でご覧を前提の解像度です。

15期 舟田 節子

富士山が爆発してといった天変地異がおきたわけでもないのに、登れなくなるなんて…。それもウイルスのせいなんて、想像したこともありませんでした。

某月刊機関誌の「山と花」コーナーに、今回は11年前（2009年）の、聖岳～光岳の縦走アーカイブを取り上げました。5日間の初シルバーウィークのお蔭で、関西OB会の遠征に便乗し、厄介な2山を消化できたという思い出です。TVもアーカイブ放送ばかりなんだから、この際、一昔前でもいいわ！と開き直っての掲載です。

それをきっかけに山記録を遡ってみると、日本百名山を完踏する前年にあたるこの年は、実に94日間、山にいました。

ちなみに、続いての10月は

3～4日 五竜岳、唐松岳（山友と）

11～12日 巻機山、苗場山（地元発ツアー）

16～17日 甲武信岳（地元発ツアー）

23日 天城山（東京発ツアー前日の単独）

24～25日 丹沢山、蛭ヶ岳、桧桐丸（東京発）という具合でした。



<2010.9.3の新聞記事>

山道具も山衣類も、洗濯し乾燥しては、広げたてである座敷と山とを往復状態でした。

転職し、まだ体力があり、子育ても卒業していた

から、幸いにやれたこと…とっていました。チャンスに食欲に探し、調整すれば、やれるものよ！と、自慢気味にもなっていました。

今、このうち、どれだけを叶えることができるでしょう！？NHKの「にっぽん百名山」も、再放送をやっては、「現在営業していません」が、必ず流れています。そのたび、この山まで、登れなくなっているんだ…のため息につながってしまいます。

あの当時、山小屋も、交通機関も、ツアー会社も、それぞれが、機能しているのは、ごく当たり前でした。そうであって、初めて、食欲も可能…ということなのでした。

僻地トレッキングの時には、「日本に生まれたお陰」なんて何度も痛感しましたが、まだまだ、痛感レベルではなかったわけです。

古希を迎えるにあたり、「社会に感謝、無難に過ごす日常に感謝」の謙虚を学んだのは、よかったかもしれません。走っているのが当然だったのが、ブレーキがかかり、地に足のついたともいうべき、日常が続いていきました。

まず、天袋いっぱいのスライドの山をスキャンしてPCに取り込む…という「偉業」が、達成できました。

おじいさんは、4枚ずつ延々とスキャンし、おばあさんは、データノートと突き合わせ、キャプションを整合させ、閑居ストレスをぶつけ合うことない、共存ステイホームがやれましたとさ…だったのです。

高価だったのに、それでもポジフィルムを使った時代がありました。講演はスライドを映写機で見せるもの、添付写真は、ポジフィルムで提出するもの…の時代でした。ちょうど、自分の動き盛り、活用盛りに重なってもしました。

ところが、マットへの書き込みくらいでは、スライド整理ができません。活用するほど、元のケースに戻せない…が増えていきました。仕事現役、家庭現役、山現役を兼ねて、かたやにデジカメ、かたやにPCの習得となると、もう手一杯。過去のスライドの整理は、ますます厄介事になっていきました。わかっちゃいるけど手をつけられない！…頭痛の種でした。

有り余る時間があって、そのうえ、外出できない今回こそが、千載一遇の機会となりました。

取り込みさえすれば、明るく、大きなディスプレ

一で、楽しみ、コピーも編集も自由自在です。

これから、クリックだけで、にこにこと遊んでいられます。100 年人生の時代に向けて、何よりの玩具の準備ができました。

さらに、一階だけで住めるように、大片づけもやりました。今回は2階を息子夫婦に明け渡す（コロナ禍で、頓挫中）という心積もりで、収納場所を半減させる…という大ナタをふるいました。ちなみに、アイゼンも（ようやく？）、金属ゴミになりました。

「この先、使うことがあるだろうか？」で、見切りをつけ、身軽になっておく…これも、100 年人生にむけての「自分の始末」です。

ごみの分別がややこしく、かつ有料になっているのですから、「片付け」は、時間と処分費用がかかる大仕事です。

私達の世代は、物のない時代を経験した親が、豊かになるとともに溜め込んだ品々を、処分せねばならない世代。それでいて、わが子達は引き継がない世代と心得、墓終いまで手配しなければならない世代なのです。気力・体力のあるうちに、やらねばなりません。

何度も片付けてきたはずでしたが、「押し込んでお終い」としていた物も、全て取り出し、「捨てる」寄りで点検していくことになりました。すると、大昔のワングルのパンフレット類が出てきました。金沢を離れたことがなく、また、女房殿のゴミ査定を受ける側ではなかったので、これまで廃棄を免れてきました。でも、次の同期会に披露して一緒に懐かしんだ後は、雑紙処分に回そうと思っています。



<1970 年当時のパンフレット>

思い入れがあっても、何を残し、何を捨てるか？これは、組織になると、なお、厄介です。何世代もが絡むと、なおさら、手の付けられない状況になっていきます。さしあたり温存の判断が続いていき、ますます手の付けようがなくなっていくます。

今回の紙面を借りて、ワングル部の記録に関して、知るところまでを述べておくことにします。

（以下、代表者名を記していますが、協力者はほかに多数と、理解して下さい。）

創部 35 周年にあたる年（1993 年）が、ちょうど城内キャンパスから、角間への最終移転の年でもありました。前年の 36 期蒲原君の剣岳滑落事故が、現役 OB 双方の協働も生み、35 周年総会にて、事務局を OB 側におくシステムでの OB 会は、再興されました。

そして、角間部室へ最終移転の日、「新部室へ移動する物」「廃棄する物」「処分に迷う物」の仕分けを現役にしてもらいました。残された「処分に迷う物」について、OB が最終チェック。卒業記念写真の額縁入りといった大型段ボール2つ分の品々は、分別抜きで、初代 OB 会長の 13 期大島さんが引き取られました。

45 周年（2003 年）にて、舟田は 10 年にわたる事務局、会報編集長を交替となりました。そこで考えたのは、35 周年記念誌編集時に集めた資料+10 年分の記録類の、確実な保管先です。

旧城内部室では記録類は散逸状態であり、一方、新部室は他部とのシェア状態でした。置いておけば、誰かは管理してくれる…など、甘い認識です。

そこで「部誌 Bergheim 全冊」「OB 会報全冊」「事故報告書などの冊子状印刷物、歌集など」の記録類を、金沢大学附属図書館に寄贈としました。前田顧問が、ちょうど図書館の世話役もされていたので、二代目 OB 会長 15 期奥名さんとともに、委託してきました。

また、35 周年記念誌は、国会図書館、ヤマケイ、大町山岳博物館に寄贈。OB 会活動アンケートにご協力頂いた、21 大学にも寄贈しています。

結果、記念誌類を集計俯瞰した「ワンダーフォーゲル活動のあゆみ」（城島紀夫 古今書院）には、金大の事例が何か所にも引用されることになりました。

記録類は、どなたかが膨大な時間を使って、スキャンするのなら、好きなように閲覧も可能と思われます。ただ私は、どなたにも、「今」という時間の方が大事だと思います。思い入れがあるのは当事者だけ、誰かの労力をあてにしてまで、存続を望むことはありません。記録は紙媒体までで留める…は、妥当な判断です。

山小屋ベルクハイムも、もう、判断すべき時に来ていると思います。

初代のままの石垣部分から上を、何度か大々的改築をしましたが…。平地に立つ我が家ですら、30年後のリフォームをやりました。人が住んでいて、そのうえでプロなりの手を入れて、建物とは維持できるもの…。素人のままで、そう思います。

山小屋は、かつて、犀川ダム建設により廃村になった倉谷の家屋を解体して、営林署から高台の土地を借り受け、1964年に完成しています（6期合津さん達の活躍）。

残っていた家屋群は朽ち消え、炭焼き作業道としての住人の往来もなくなり、犀奥は、もっぱら、金大ワングルのホームグラウンドとして活用されていました。新人トレに使い、登山道整備がつきものの小屋作業にも使い、駒帰から徒歩3時間にも関わらず、週末には誰かが山小屋に入っていて、KUWVのシンボルともいえる存在でした。

でも、それらは、昭和のあたりまで。新トレが離れ、小屋作業も間遠になっていきます。

屋根に穴が開き、床から萩が咲いていた状態から復活させたのは、やはり、剣岳滑落事故の後の現役達（36期石川主将の時代）。

その後、15期桂さん（1970年5月の、新トレ事故）の追悼碑の補修をきっかけに、山小屋酒場が始まり、OBの手での補修が続いています（13期辰野さん、吉田さん、16期北川君 他の活躍）。

また、登山道整備の補助金は、当時のナカオ山岳会の代表が、金沢市にそんな主旨（草刈りをやっているような団体に、多少の助成を行う）の制度があることを教えてくれ、叶ったものです。



<1995. 9. 23～24 月見の宴>

高三郎に立つ道標は、2000年10月、金沢市からの発注をナカオ山岳会が受け、現役（43期の加藤君、西脇君、45期深作君）を標柱担ぎ上げバイトに雇い、施工しました。

ダム湖ボートは、18期椿川さんに管理事務所の物を手配してもらい、後には地元獺友会の故山下さんをお願いしていました。現在は甥ごさんが請け負ってくださっています。

通常、ダムへ至る道路やダム湖周辺巡回道の補修は必須らしいですが、行き止まりである犀川ダムの場合は、緊急性なし。不通時のために、ヘリポートも作られています。今後も、駒帰からやや奥の、寺津のゲートを開ける必然はないのです。

許可をとらないと、入れないような鍵のかかるゲート経由では、山小屋は、通常利用ができません。見た目どおり、「入らないで下さい」です。

そんな倉谷の山小屋活用や、そこを経由しての高三郎登山は、常識的には無理です。

近年の、降れば集中豪雨なみの天候は、一帯を原始に戻しつつあります。

さて、今年6月8日に、医王山で、南砺市の老女の遭難事故がおきました。喧嘩して夫より先行しての道迷いで、1か月後に、三蛇ヶ滝の下流で、ストックや衣類の切れ端が見つかりました。ナカオ谷乗越（白元山とダオ山の鞍部）以降で、不明になったものです。搜索協力もしましたが、ナカオ新道へ迷い込んだ可能性が高いと、ナカオ会員達の心痛は募りました。

もともと、ナカオ新道とは、やはり1960年代に伐開された山道です。大池平で私有地規制があった（これがきっかけで、ワングルは犀奥へ進出となりました）昔は過ぎ、まず、富山県側が、さらには1996

年には石川県側が自然公園になりました。それまでの既成道は黙認状態とされ、「整備してもらえたら、ありがたい。その際には事後報告してほしい」の了解をとっています。何度かの内紛を経緯して、今も必ず、整備に入っています。

ともあれ、この8月に、初心者がうっかりでも迷い込むことのないような標識を道の真ん中に立て、虎縄でも結界してきました。



<2020. 9. 21 医王山中尾谷乗越での安全策>

かつて、高三郎からさらに奥まで登山道が延びていた時代、延ばそうとしていた元気な時代、がありました。ところが当局からは、「その道で遭難者が出たらどうする」と苦言されて、鎮静していったようです。善意だからいいというものではないのです。

今では、旧倉谷集落へ入る手前すら挟れていて、へつり状態ですし、その奥の登山道も、もともとの急坂にくわえ、藪盛りです。雪と豪雨で、毎年崩落も激しいです。麓に生活者のいない高三郎は、本来の自然に帰ろうとしています。

すでに、新トレ場所から外れているうえ、5～6月を過ぎると、1300m ぐらいの藪山に魅力を見出すのは、とても難しい。現役達が行きたい山なら他にいくらでもあります。「ワンゲル伝統の山」とこだわるのは、現役にも、OBにも無理。仕切り直す時期は、来ていると考えます。

もし「山小屋」なる空間が必要であれば…。医王山の近くの集落で、持て余し気味の大家屋を、協定を結んで、利用できるとすればいいかでしょう。金大は、今では地域交流、地域おこしにも励んでいます。所有者に基本管理をしてもらい、年間利用料を払い、もしくは格安利用料を設定し、部員もOBも気

楽に活用できる、山里空間に。

本来求められた山小屋とは、部員同士の交流を深める物であったのではないのでしょうか。負担になるのではなく、より、山の魅力や、ワンゲル部の魅力を増すものでなくては意味がありません。

現在の、行き辛くて、維持し辛いベルクハイムは、プラスに機能していません。ここで見過ごせば、さらに重荷になるだけ、さらに手のつけようのない遺物になるだけです。

十分思い入れを持つOBがいる間に、そんな人達の手で、「本当の小屋終い」を、きちんとやりませんか？ せっかくOB会組織があるのなら、まずここでの意見交流と、次なる行動を願います。



<2002. 5. 11～12

ワンゲルとナカオ山岳会の合同登山道整備>

年金世代の方達が、新たな登山道伐開に励んでいるニュースをあちこちで聞きます。「限界集落」の村おこしが、客を集め、成功事例と、持ち上げられてもいます。いい話題の方とはいええます。

でも、これは一過性です。子育て世代が移住してこない限り、集落は継続できません。

「子育て卒業し、年金で安泰となっている世代」が、余った時間と体力で残り火を掻き立てても、否応なしに、歳はとり、体は動かなくなっていく。そのあげく「われらはここまで頑張った。あとは頼んだ」と次世代に押し付けるのは、かなりの身勝手。自分達だけの満足です。

その点には、私は冷ややかな目をもっています。

赤字国債、原子力発電ほか、「後は野となれ、山となれ！」的な、快適を、自分のせいではないとばかりに、私達は続けていますが…。

少しでも片付けて、清々しい空間にしていこう…できる範囲のことなら、呼び掛けたいです。

Key words

民陶の里・小鹿田、民芸運動（柳宗悦、濱田庄司、河井寛次郎、バーナード・リーチ）、産業革命、唐臼、国の重要無形文化財、ポスト・コロナ

1. 柳宗悦と小鹿田の出会い

江戸後期、日本の庶民の生活工芸は成熟期を迎えていました。焼き物などの生活雑器は、各地方の生活様式に合ったものが、その土地に住む人々の手によって生み出されていました。しかし明治以降、近代科学技術の導入によって大量生産が可能となり、工業化された陶器製品が、各地にあった小さな民窯を駆逐していきました。

産業革命で失われた手仕事の良さを見出し復活させるアーツ・アンド・クラフツ運動を、英国で展開したのはウィリアム・モリスでした。

日本では、柳宗悦〔やなぎ・むねよし〕（1889-1961）が民芸運動を提唱しました。柳は1925年暮れ、陶芸家の濱田庄司、河井寛次郎らと共に「民芸」という言葉を造りました。「民芸」とは民衆の工芸のことです。無名の工人が庶民の為に作った日常雑器などの中に美を見出し、世間に紹介していこうという運動です。民芸運動は今も日本民藝館（東京・駒場）を拠点に続けられています。柳は日本全国の手仕事を発掘する旅を始め、1931年、小鹿田〔おんた〕を訪れました。

柳は著書で小鹿田についてこう記しています。「九州に窯は沢山ありますが、おそらくこの日田の皿山〔註〕ほど、無疵で昔の面影を止めているところはないであります。（中略）昔の窯場がどんな様子であったかを思いみる人は、現にあるこの小鹿田の窯を訪ねるに如くはないと思います」（〔註〕皿山：生活用の焼き物を作っている里のこと）『手仕事の日本』（1948年）

2. 初めての小鹿田訪問

大分県に住む大家君（17期）の「九州へ来たら、いつでも案内してやる」という言葉を真に受け、夫婦で出かけました。2009年10月のことです。小倉で新幹線から日豊本線へ乗り換え。中津と別府に泊まり小鹿田を往復して大分空港から帰る旅程です。中津駅前で待合わせ。中津は福沢諭吉

が幼少年期を過ごした町です。料理屋で新鮮な瀬戸内の幸を肴に、麦焼酎「学問のすすめ」を飲みました。本の形をした陶器製の瓶が洒落ています。少し頭が良くなったような気がしました。

翌日は、大家君の運転で中津から別府まで南下。カブトガニの生息する中津干潟（子供の頃、尻尾を掴んで振り回して遊んだそうです）に寄ってから、宇佐八幡宮を参拝しました。宇佐農業高校〔現：宇佐産業科学高校〕での教員時代、後に大相撲力士になる垣添〔現：雷（いかずち）親方〕が在籍しており、大家君は垣添と相撲を取ったとのこと。垣添は自らこけて「先生、つえー」と言ったそうです。「垣添君に勝った先生は俺だけだ」、車中でそんな話を聞かされながら、国東半島の熊野摩崖仏や富貴寺の国宝阿弥陀堂などを見て回りました。別府・鉄輪温泉まで送り届けてもらい、別れました。社会科の先生の解説付きドライブで、大分県のことがとてもよくわかりました。

次の日、レンタカーで大分自動車道を西進し、日田市の山中にある小鹿田に向かいました。日田盆地から小野川（筑後川水系）を北へ、支流の皿山川沿いに30分ほど車を走らせると、こぢんまりとした小鹿田の集落（戸数14）が現れました。耶馬日田英彦山国定公園の中に位置しています。英彦山〔ひこさん 1,199m〕に連なる峰々の谷間にある、日田杉の美林に囲まれた集落は標高430m。日照時間が短く標高も高いので気候は冷涼で、炬燵がいらないのは夏の間だけです。集落の高台にある小鹿田焼陶芸館の前に車を停めました。焼き物の里は静かにたたずんでいました。聞こえてくるのは、小川のせせらぎ、そして唐臼〔からうす〕の響きだけ。唐臼の杵音が谷あいにくこたまり、ここだけは別の時間が流れているようでした。



【①唐臼（杵が辛抱強く土を砕く）】

と、普段は静かな小鹿田なのですが、あいにく僕らが訪れた日は民陶祭（10月）の打ち上げだったのか、陶芸館の2階に陶工たちが集まりカラオケ大会（？）の真最中でした。マイクを通した歌声が村中に響き渡っていました。小鹿田焼の窯元で構成される小鹿田焼技術保存会は1995年に国の重要無形文化財の保持団体に認定されました。個人が認定された場合は人間国宝と呼ばれます。ということは、陶工みんなが、いわば「人間国宝」なのです。

ゆるやかな坂道を下りながら、一軒ずつ窯元を訪ねました。「人間国宝」たちがカラオケで出払っていたので、窯元はどれもひっそりとしていました。お気に入りの焼き物を買うには、居間の炬燵で寝ている店番の奥さんを起こさねばなりませんでした。



【②窯元に並ぶ器（上段の大皿は飛び鉋）】

3. 小鹿田焼の特徴

- 1) 窯元は一子相伝の世襲制。1969年から窯元は10戸。（2019年、後継難で1戸が廃窯し9戸に）。
- 2) 小鹿田焼は、「用の美」をかなえる生活雑器。製品に個人名を印さない。銘は「小鹿田」か「おんた」。
- 3) 手仕事による家内工業。すべて人力と自然エネルギーで賄う。陶土を粉碎するための唐臼は水力。登り窯の燃料は薪（杉の丸太を製材する時の割り落とし）。成形は電動ろくろ（回転台）を使わず、蹴ろくろや手回しろくろで行なう。
- 4) 地産地消。集落全体の地質は厚い陶土層。共同で採土を行ない平等に分ける。釉薬は地元産で、白釉、飴釉、緑釉などを調製する。
- 5) 特色ある技法は飛び鉋と刷毛目。飛び鉋は、現代では小鹿田焼と兄弟窯の福岡県・小石原〔こ

いしはら〕焼、沖縄のやちむんにしか見られない。

小鹿田焼のこれらの特徴は、この土地がはぐくんできたものです。「ここ皿山は基本的には昔も今もさして変わっていない。なにせ、小鹿田皿山は立地空間が狭く、変わろうにも変われなかったというのが本当のところであろう。現状の10軒の窯元の数の制限といい、一子相伝の伝統といい、これらはみな小鹿田皿山の自然的制約から必然的に生まれた、いわばここ特有の生きるための一種の掟なのである。ここ皿山の堅固な共同体の意識もしかりだし、みんなで考え、みんなで共に作業をし、突出をけって許そうとしない姿勢もここ皿山の、長い間に培われてきた生きる知恵であり、これもやはり狭い陶郷なるがゆえの産物であった。」〔長田明彦他監修『小鹿田焼』（2012年）〕

4. 唐臼

小鹿田で一番印象に残ったのは、唐臼の音でした。唐臼は水の力を利用して陶土を細かく砕くものです。名前が示すように、朝鮮半島経由で中国から伝わりました。まるで巨大な鹿おどしです。長さ6m、直径30cmの松材の根元の方に水を溜める水船がくり抜かれ、桶で引かれた川水が水船に流れ込みます。満杯になると傾いて水がこぼれ元に戻ります。この上下動によって杵が土を砕く仕組みです。ギィ・・・ゴトン。少しの間があって、ギィ・・・ゴトン。村を流れる皿山川沿いにある45基の唐臼が、24時間働き続けています。

「日本の音風景百選」に選ばれた唐臼の緩やかな音が、小鹿田そのものの音なのです。ここでは時間が止まっているわけではありません。じっくりと熟成させながら、時は流れているのです。日本では、もうここでしか見られない風景です。



【③唐臼（桶の川水が長方形の水船に注がれる）】

5. 小鹿田の暮らし

小鹿田焼は陶工がひとりで作るものではありません。機械を使わず、弟子を取らない小鹿田の窯元では、家族全員で焼き物を作るのです。原材料（陶土、釉薬）もエネルギー（水力、薪）も、すべて地元で賄う小鹿田では、これが最もふさわしいやり方なのです。

土練り、蹴ろくろによる成形、飛び鉋の模様付け、登り窯による焼成など技を必要とするものは陶工である当主の仕事ですが、当主以外の家族も老若男女ひとりひとりの役割に応じて働きます。

特に、小鹿田では女性たちが大きな役割を果たしています。子育てや家事全般に加え、土づくりの作業は女性の大切な仕事です。朝は唐臼の土を返しに行くことから始まります。さらに釉薬がけ、窯詰め、窯焚き、窯出しなどの工程で陶工を支えています。

そして、小鹿田では子供や鶏さえ、自分たちの本分をわきまえています。「庭のいたるところに並べられた焼物は、その間を子供たちが遊び廻り、鶏が地面をひっかきまわしているのに、めったにこわれることがない。子供たちは焼物屋の子であり、鶏もまた多分そうなのだ。」〔バーナード・リーチ『日本絵日記』（1955年）〕



【④土づくりの作業（左：乾燥窯 右：「おろ」）】

写真左は粘土の乾燥窯。窯の上部に粘土を乗せ、窯の下の燃焼室で端材などを燃やして乾燥させます。右はその前工程。「おろ」と呼ばれる水抜き台で粘土の水分を抜きます。底が砂利と藁ムシロの透過性の構造で、水分だけ下に落ちるようになっています。

集落近くの土採り場から村民の共同作業（年2回）で採取した土は、10日ほど乾燥させてから唐臼に2週間突かせて粉末にします。粉末になった

土を水で漉して不純物を取り除き、「おろ」に移し水分を抜いて乾燥窯で乾燥させます。ここまでの土づくりの工程が女性の分担です。ていねいに作られた土から良い焼き物が生まれます。

集落の中には窯元以外の家が5戸（大工、左官屋、そば茶屋等）あり、唐臼の製作や窯の修繕など、窯元となんらかの関係があります。ここでは各家は孤立せず、今もひとつの共同体を形作っているのです。

6. 戦後の小鹿田焼

僻村の小鹿田も戦争と無縁のはずはなく、男たちは兵隊にとられ戦死者も出ました。戦争末期からの4年間、窯の火は消えました。

小鹿田が復興し始めた1950年、濱田庄司（1894-1978）がやって来ました。濱田は、村民共同での採土から窯出しに至る工程や技術の独自性を高く評価し、日田工芸指導所（後の日田産業工芸試験所）の寺川由己所長と小鹿田焼の技術をどう守るかについて話し合っています。1951年、柳宗悦が再訪し『みだりに昔を崩さぬように』と、念押ししています。寺川所長は濱田や柳の考えに理解を示し、以降、小鹿田焼の技術保存に陶工と共に協力していくことになります。



【⑤陶芸館（中央左 バーナード・リーチの大皿）】

1954年4月、英国の陶芸家バーナード・リーチ（1887-1979）が小鹿田を訪れました。これが小鹿田にとって画期となりました。彼は三週間村人たちと暮らしながら、多くの種類の器を作りました。香港生まれ日本育ちのリーチは、柳たち日本民芸運動の盟友であり、英国に帰国した後も10回以上来日しました。リーチの小鹿田での滞在時には、大勢の見物人がやってきて、村始まって以来の大騒ぎとなりました。

小鹿田に逗留して、リーチは西洋では失われた「共同体としての窯業のあり方」を知り、深い感銘を受けました。「この日私は私を再び東洋に來させるに至った真の動機といったものが、いっそうはっきりと判った。それは、巢の中の無名の工人たちを見つけ出し、彼らとともに暮らし働くことから、産業革命以来私たちが失ってしまった総体性 (Wholeness) と謙虚さを学びとるべく努めるためである。」『日本絵日記』(1955 年)』

神戸港から船で別府に着いたリーチを丁重にもてなしたのは大分県知事でした。小鹿田での窯明けの日には県知事やマスコミなどたくさんの人々が集まり、その後、日田市役所で講演会が行われました。そこで細田知事は、敗戦後多くの日本人と同じように方向を見失い何か頼りになるものを求めた自身の経験を語った上で、こう述べています。「あなたたちは私のなすべきことを与えてくださった。それは工藝を通じて日本の姿を保持して行くことです」『日本絵日記』(1955 年)』

その後、民芸ブーム (1960 年～70 年代) が到来し、小鹿田も広く知られるようになりました。そして製品の注文が殺到することで、窯元たちは重大な岐路に立たされます。今のままの焼き物づくりを続けていくのか、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」〔伝産法〕の適用を受けて地場産業化し大量生産が出来るようにするのか、販路を大量販売できる業者に任せるのか等、さまざまな議論がおこります。こうした状況に対応するため日田民藝協会が 1961 年に設立され、日本民藝協会の指導を仰ぎました。この結果、伝産法を拒絶し、生産工程の見直しも行わないことを決め、小鹿田にとって最も大切な『みだりに昔を崩さぬように』という柳の教えは守られました。

1705 年の開窯以来、小鹿田は半農半窯の集落でした。狭い田畑を耕し生活用の雑器を作って質素な暮らしをほそぼそと続けてきたのです。民芸ブームで焼き物が売れ生活が安定した小鹿田では、1960 年代にはいって離農が始まり、1971 年にすべての窯元が焼き物専業となりました。

そして小鹿田焼は「伝統的な陶芸技法のなかでも、工芸史上重要な地位を占めるとともに、地方的特色の顕著な工芸技術として極めて重要である」(文化庁) として、1995 年、国の重要無形文化財に認定されました。2008 年には民陶の原形を

保つ里として重要文化的景観にも選ばれました。

7. 小鹿田・再訪

2013 年 10 月、九州の湯布院で 17 期同期会が開催 (幹事: 大家君) されました。天候に恵まれ絶好の同期会日和でした。宿の部屋からは由布岳がよく見えました。宴会の翌日は、紅葉の美しい久住山を越え、大観峰まで快適なドライブを楽しみました。阿蘇の雄大な眺めを堪能して現地解散。

その足で、同好の士 (渡辺、恵比寿、加地) と共に計 5 人で小鹿田へ行きました。民陶祭 (毎年 10 月第 2 土・日開催) は前日に終わっていましたが、祭りの余韻は残り、外国人を含め多くの人たちが村を訪れていました。みんなで窯元を巡り、取り皿や豆皿、茶碗など、めいめいお気に入りの器を買い求めました。



【⑥未来の陶工による抹茶サービス】

ある窯元では、抹茶が振る舞われました。リーチが言うように、この子もまた焼物屋の子です。そして一子相伝の掟に従い、彼も父の跡を継いで陶工になるのです。

今年、小鹿田へ行く予定でしたが、コロナ禍で断念せざるを得ませんでした。でもこんな時だからこそ、もう一度訪れたい小鹿田です。

【小鹿田焼 参考書】

- 1) 柳宗悦『手仕事の日本』岩波文庫
- 2) バーナード・リーチ/柳宗悦訳『バーナード・リーチ日本絵日記』講談社学術文庫
- 3) 長田明彦他監修『小鹿田焼 すこやかな民陶の美 増補版』芸艸堂

【写真①～⑥】

撮影日: 2013 年 10 月 14 日 場所: 日田市小鹿田

令和5年（2023年）までの

OB会会費及び寄付金の納入についてのお願い

会計担当 小久保光将（23期）

日頃よりKUWVOB会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では5年ごとの周年行事をはじめ、会報「やまざと」の発行、小屋作業（小屋酒場）、現役との懇親会等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くのOB・OGの皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。

おかげさまで今期の一般会費収入は2,411,000円、今期から新たに開始した現役活動支援寄付金収入は912,000円（うち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた現役生への無利子貸付支援金への寄付分として390,000円）のご協力を頂きました。

今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 会費

年2,000円。ただし、事務負担軽減のため、5年間の一括払い（＝10,000円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

2. 現役活動支援寄付金

・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は1口2,000円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。

・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

3. 納入方法

- ・郵便局に備え付けの振込用紙（青色）で振り込んでください。恐れ入りますが、今回は振込用紙の添付はしておりません。（手数料は各自のご負担となります。）
- ・その際、金額、住所、氏名、ご自分の「期」をご記入ください。
- ・銀行振込でもOKです。その場合は次の口座へお願いします。

北國銀行本店営業部 普通預金No.223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

今年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、ワンダーフォーゲル部としての日常活動を含め影響することが多かったと思います。そういう中、みなさまからのご厚意により現役生を応援するための支援活動資金が集まりました。支援活動への資金援助のご協力誠にありがとうございました。利用希望者は今のところありませんが、年度末まで継続し、残金は年度末で現役活動支援寄付金に組み込む予定です。

小屋もまだまだ健在ですし、会報発行程度の作業はさしたるものではないのですが、会員の高齢化に伴う活動力低下、実質的な会員数の減少による会費収入の減少といった10年、20年後の現実を見据えて少しずつ対応を考えて行きたいと思います。特に中堅、若手の会員からの積極的な提言をお願いします。

森のうた

一、キミは覚えてるかい？

雨上がりの森のにおい

氷りだす月

オレンジに染まる谷　くだったこと

ボクは　ほしい

雲のように

変わりつづけるころ

二、ボクは持っているかな？

峰の奥の空の深さ

鳥の孤独

あの山でキミがつぶやいた言葉

ボクは　ほしい

オオシラビソの

立ちつくす激しさを

三、キミは知っているかい？

にこ毛そよぐブナの森を

山靴の夢

倉谷のタムシバの花の白さ

ボクはほしい

カタクリの

日なたに躍る気持ち